Privia **PX-S1100**

JA

取扱説明書

はじめの準備



電源の準備



電源の入れ方、切り方



ペダルを使う



ヘッドホンを使う

鍵盤で演奏する



音色を1つ選ぶ



2つの音色を重ねる
（レイヤー）



鍵盤を左右に分けて使う
（スプリット）



メトロノームを使う

音の高さを変更する



テンポを設定する



音の高さを半音単位で変更する
（トランスポーズ）



音の高さを微調整する
（チューニング）

音に厚みを加える



コーラスを使う

音の響きや雰囲気を選ぶ



サウンドモード（ホールシミュレーターとサラウンド）を使う

自動演奏（内蔵曲）を聴く



曲を聴く（ミュージックライブラリー）

演奏をリアルタイムで記録する



MIDIレコーダーで演奏を録音／再生する



オーディオレコーダーで演奏を録音する

スマートデバイスと接続する



スマートデバイスとリンクする
（APP機能）

- 乾電池だけで本機を使用しているときに、大きな音量で演奏や曲再生をすると、音が歪んで聞こえる場合があります。これは、ACアダプターと乾電池の違いによるもので、故障ではありません。音の歪みが気になる場合は、ACアダプターでご使用いただくか、音量を下げてください。

CASIO

目次

本機の概要と使用前の準備 2

各部の名称 2
電源の準備 4
電源の入れ方、切り方 5
オートパワーオフ機能 6
ペダルを使う 6
ヘッドホンを使う 7
付属のワイヤレス MIDI & AUDIO アダプターを使う 7

共通の操作 8

タッチボタンの操作 8
曲選択鍵盤(テンキー)を使って曲番号を入力する 9
通知音について 9

各種の操作 10

デモ演奏を聴く 10
音色を選んで弾く 10
音色を 1 つ選ぶ 10
2 つの音色を重ねる(レイヤー) 11
鍵盤を左右に分けて使う(スプリット) 11
鍵盤を押す強弱で音量を変える(タッチレスポンス) 12
音の高さを半音単位で変更する(トランスポーズ) . . . 12
音の高さを微調整する(チューニング) 13
音の高さをオクターブ単位で変更する(オクターブシフト) 13
サウンドモード(ホールシミュレーターとサラウンド)を使う 14
コーラスを使う 15
ブリリアンスを使う 15
アコースティックピアノの音の特徴を調整する(アコースティックシミュレーター) 16
メトロノームを使う 18
テンポを設定する 19
鍵盤を左右に分けて 2 人で弾く(デュエット) 20
鍵盤の音律(スケールチューニング)を変える 21
曲を聴く(ミュージックライブラリー) 22
MIDI レコーダーで演奏を録音/再生する 24
録音する 25
録音した内容を再生する 27
オーディオレコーダーで演奏を録音する 27
曲を聴く(MIDI プレーヤー) 29

USB メモリーを使用する 31

使用可能な USB メモリー 31
USB メモリーと USB Type A 端子の取り扱い上のご注意 31
USB メモリーを本機に装着する、USB メモリーを本機から取り外す 32
USB メモリーをフォーマットする 32
USB メモリーの各種操作 33
一般の曲データをパソコンで USB メモリーにコピーする 35
一般のオーディオデータ(WAV ファイル)を USB メモリーに保存する 35

設定を変更する 36

Upper1 パートの音量を調節する 36
Upper2 パートや Lower パートの設定を変更する 37
音量のバランスを調節する 38
センターキャンセル機能を使う 38
MIDI 設定を変更する 39
ペダルの機能を切り替える 39
その他の設定 40
ファクトリーリセット(初期化) 42

スマートデバイスとリンクする(APP 機能) 43

スマートデバイスと接続する 43

困ったときは 45

エラー表示一覧 46

資料 48

製品仕様 48
音色リスト 50
ミュージックライブラリーリスト 51

MIDI インプリメンテーション・チャート

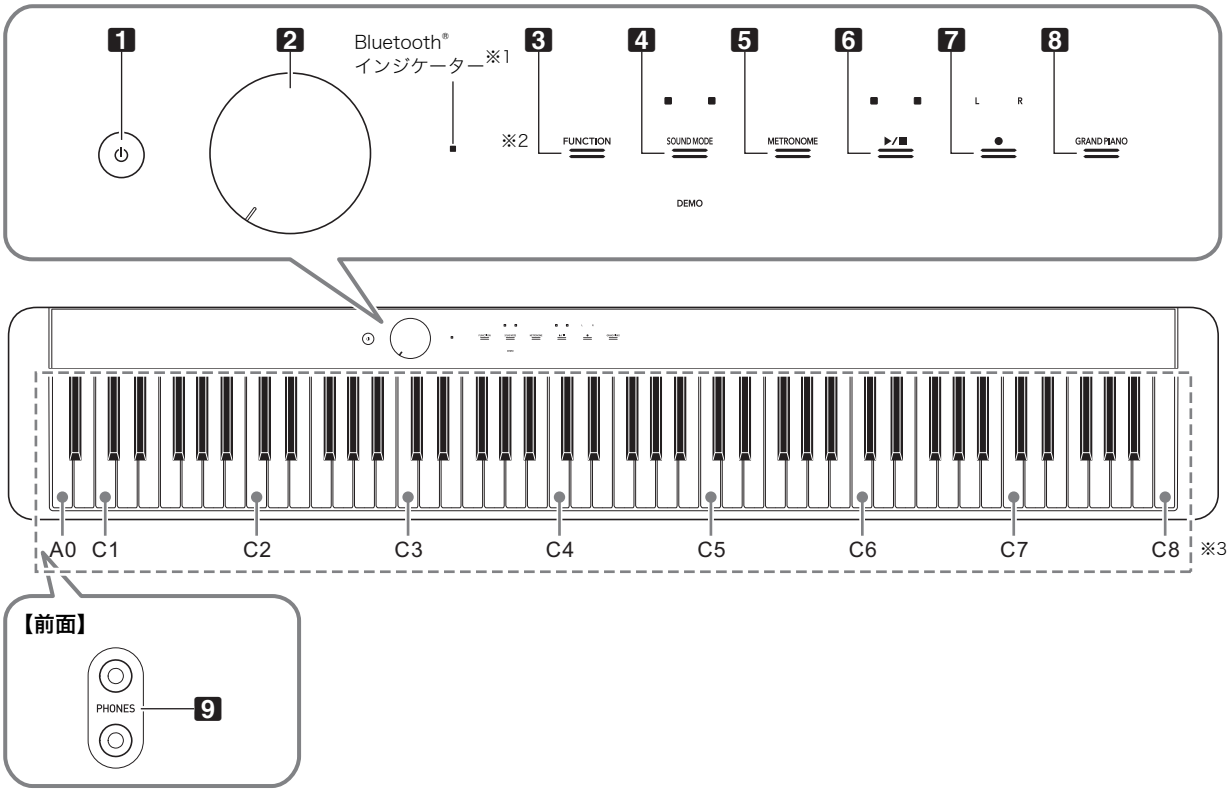
本書の内容について

- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- 本書のイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、カシオ計算機(株)はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- 本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

本機の概要と使用前の準備

各部の名称

■フロントパネル



1 ⏻（電源）ボタン

2 音量つまみ

3 **FUNCTION**（ファンクション）ボタン

4 **SOUND MODE**（サウンドモード）ボタン

5 **METRONOME**（メトロノーム）ボタン

6 **▶/■**（演奏／停止）ボタン

7 **●**（録音）（REC）ボタン

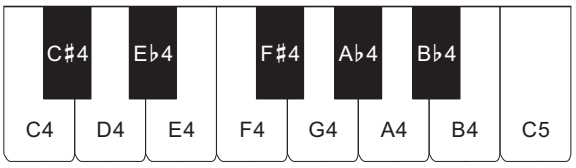
8 **GRAND PIANO**（グランドピアノ）ボタン

9 **PHONES**（ホンズ）端子

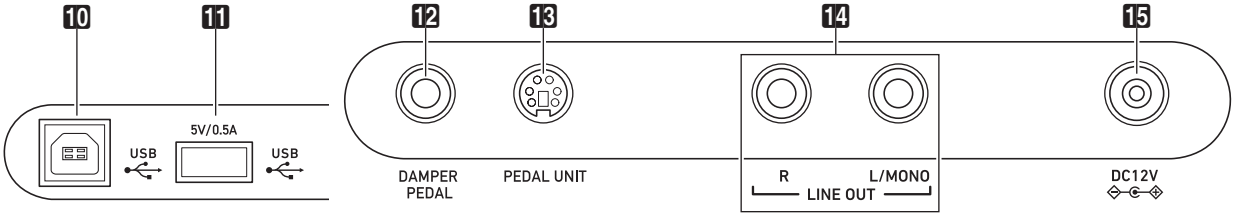
※1 Bluetoothインジケーターについて
本機の初期状態では、ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを装着せずに電源を入れると、Bluetoothインジケーターがしばらく点滅してワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターが装着されていないことをお知らせします。

※2 タッチボタンについて
3～**8**は、本機の電源を入れると点灯するタッチボタンです。

※3 鍵盤の音名と音高について
本書では鍵盤の音名と音高を国際式（中央ド＝「C4」）で表記しており、一番低いドの鍵盤を「C1」、一番高いドの鍵盤を「C8」と呼びます。各鍵盤の音名表記は下記のとおりです（図はC4からC5までの例です）。

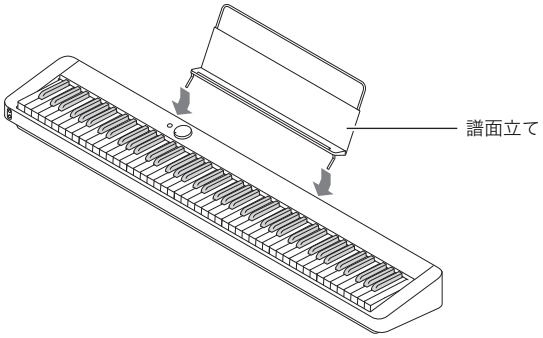


■背面端子部



10 **USB** Type B端子（ユーエスビータイプ B）
11 **USB** Type A端子（ユーエスビータイプ A）
12 **DAMPER PEDAL**端子（ダンパーペダル）
13 **PEDAL UNIT**端子（ペダルユニット）
14 **LINE OUT R、L/MONO** 端子（ラインアウト）
15 電源端子（**DC 12V**）

■譜面立ての準備



電源の準備

本機は電源としてACアダプターを使用します。

メモ

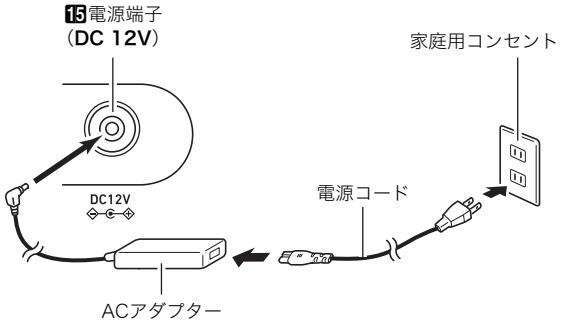
- 電源として乾電池もご使用いただけますが、基本的にはACアダプターのご使用をおすすめします。

■ACアダプターを使う

本機指定のACアダプター(JEITA規格・極性統一形プラグ付き)を使用してください。他のACアダプターを使用すると発煙や故障の原因になることがあります。

ACアダプターの型式: AD-A12150LW
(JEITA Standard plug)

ACアダプターの接続には、下図のように付属の電源コードをご使用ください。

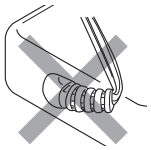


重要

- **本機付属のACアダプター(JEITA規格・極性統一形プラグ付き)は、本機にのみご使用ください。他の機器への接続は絶対に行わないでください。故障の原因となります。**
- **ACアダプターを差したり抜いたりする前に、必ず本機の電源を切ってください。**
- **長時間ご使用になりますとACアダプターが若干熱をもちますが、故障ではありません。**
- **コード部の断線防止のため、下記の点にご注意ください。**

<使用時>

- コードを強く引っ張らない
- コードを繰り返し引っ張らない
- コードの根元部分を折り曲げない

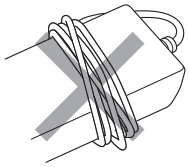


<移動時>

- 本体を移動させる場合は、必ずACアダプター本体をコンセントから外す

<保管時>

- コードは図のようにACアダプター本体に巻き付けず、束ねてまとめる



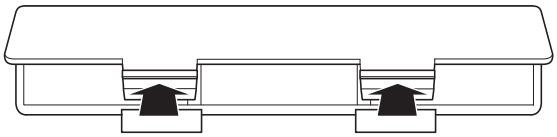
- **本機の電源端子に、金属片や鉛筆などを入れないようにご注意ください。これらが端子に入ると、事故の原因になります。**
- **付属の電源コードは、本製品以外の電気機器には使用しないでください。**
- **ACアダプターは、使用する機器の近くにあるコンセントに差し込んで使用してください。不具合が生じた時には、コンセントから直ちに取り外せるようにしてください。**
- **ACアダプターは、屋内専用です。水滴のかかる場所には置かないでください。また、水の入った花瓶などをACアダプターの上にのせないでください。**
- **ACアダプターを、新聞紙やテーブルクロス、カーテンなどで覆わないようにしてください。**
- **本機を長い間使用しない時には、ACアダプターをコンセントから外してください。**
- **ACアダプターは、修理することができません。破損・故障時は、新品をお買い求めください。**
- **ACアダプターの使用環境: 温度0〜40℃**
  湿度10%〜90%RH
- **出力形式: ◈—ⓒ—◈**

■乾電池を使う

重要

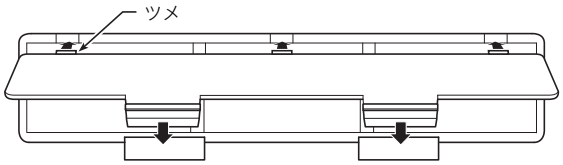
- **乾電池を入れる前に、必ず本機の電源を切ってください。**
- **乾電池は市販のアルカリ乾電池をご使用ください。**
- **乾電池を入れるために本機を裏返すときは、次のことにご注意ください。**
  - **本機の下に手を挟まないようご注意ください。けがの原因となります。**
  - **不用意に倒すなどして、本機に衝撃を与えないでください。音量つまみや鍵盤が破損する原因となります。**

1. 本機の裏側にある電池ブタをはずします。



2. 市販の単3形乾電池、6本を電池ケースに入れます。
   本体の印に合わせて⊕⊖の向きを間違えないように入れてください。

3. 電池ケースの穴にツメを差し込み、電池ケースのフタを閉じます。



■乾電池消耗のお知らせ表示

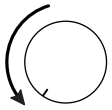
乾電池が消耗してくると、**3 FUNCTION**を除くすべてのタッチボタンが点滅します。演奏の音量を下げても点滅が続く場合、新しい乾電池と交換してください。

重要

- **電池が消耗したまま本機の使用を続けると、突然電源が切れることがあります。この場合、本機に記録しているデータが破損・消失する恐れがあります。**
- **電池が消耗すると、本機が正常に動作しなくなる場合があります。このような現象が発生したときは、新しい電池に交換してください。**

電源の入れ方、切り方

1. 電源を入れる前に、**2**音量つまみを下図の位置まで回しておきます。



2. **1** ⏻(電源)ボタンを押して、本機の電源を入れます。



電源が入ると、本機フロントパネル部のタッチボタンが左から右(**3 FUNCTION**～**8 GRAND PIANO**)に、順次点灯します。すべてのタッチボタンが点灯したら、本機が使用できる状態になります。

- 電源を入れる際は、**1** ⏻(電源)ボタンを押してから本機が使用できる状態になるまで、ペダルを踏まないでください。
- **1** ⏻(電源)ボタンを軽く押しても電源が入らない場合がありますが、故障ではありません。その場合は**1** ⏻(電源)ボタンをしっかりと押し直してください。

3. **2**音量つまみを使って、音量を調節します。

4. 本機の電源を切るには、点灯しているタッチボタンがすべて消灯するまで、**1** ⏻(電源)ボタンを押し続けます。

メモ

- **1** ⏻(電源)ボタンで電源を切ったあとも、本機は微電流が流れているスタンバイ状態になっています。本機を長時間使用しないとき、あるいは落雷のおそれがあるときは、必ずACアダプターをコンセントから外してください。
- 本機の電源を切ると、音色番号などの各種設定が初期化されます。オートレジューム(40ページ)をオンにしておくと、電源を切ってもほとんどの設定が保持されます。
- オートレジュームがオフのときは、本機の電源を切ると各種設定が初期化されますが、チューニング(13ページ)およびタッチボタンの明るさ(40ページ)の設定は保持されます。

■電源切り忘れお知らせ機能について

本機をACアダプターに接続して使用しており、何も操作せずに約6分間が経過すると、タッチボタンが順番に点灯と消灯を繰り返して、本機の電源が入ったままになっていることをお知らせします(「電源切り忘れお知らせ」がオンの場合)。
ボタンにタッチしたり鍵盤を押したりするなど、何らかの操作をすると、通常の状態(すべてのボタンが点灯)に復帰します。電源を切り忘れていた場合は、点灯しているタッチボタンがすべて消灯するまで**1** ⏻(電源)ボタンを押し続けて、本機の電源を切ってください。

メモ

- 「電源切り忘れお知らせ」が働くか、働かないかを切り替えることができます。40ページ「その他の設定」をご参照ください。
- 本機を乾電池で使用している場合は、何も操作せずに約6分間が経過すると自動的に電源が切れます(6ページ「オートパワーオフ機能」)。

■本機を工場出荷時の状態に戻す

本機のデータや設定などシステムの内容をすべて初期化して、工場から出荷したときの状態に戻すことができます。詳しくは42ページ「ファクトリーリセット(初期化)」をご参照ください。

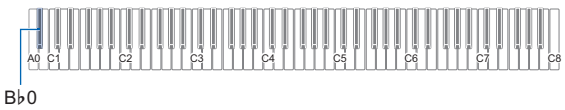
オートパワーオフ機能

本機を何も操作せずに一定時間が経過すると、無駄な電力消費を防ぐため自動的に電源が切れます。電源が切れるまでの時間は、約4時間(ACアダプター使用時)／6分(電池使用時)です。

- コンサートなどで演奏の合間に電源が切れないよう、オートパワーオフ機能をキャンセルして使用できます。オートパワーオフ機能をキャンセルするには、下記の操作で設定をオフに切り替えます。

■オートパワーオフ機能のオン／オフを切り替えるには

1. **3**FUNCTIONを押さえたまま、B♭0鍵盤を押します。



- B♭0鍵盤を押すたびに鳴る通知音で、押した後の設定(オンまたはオフ)を知ることができます。詳しくは9ページ「通知音について」をご参照ください。

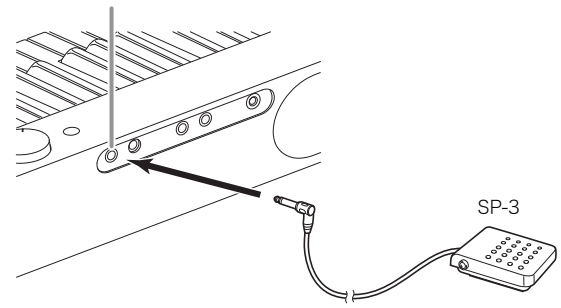
2. 希望する設定に切り替わったら、**3**FUNCTIONを離します。

ペダルを使う

付属のペダル(SP-3)を**12**DAMPER PEDAL端子に接続します。

【背面部】

12DAMPER PEDAL端子(標準ジャック)



このペダルは、本機の初期設定ではダンパーペダルとして機能します。他の機能(ソフト、ソステヌートなど)に切り替えたい場合は、39ページ「ペダルの機能を切り替える」をご参照ください。

■PEDAL UNIT端子について

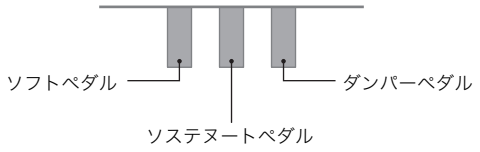
13PEDAL UNIT端子には、別売のペダルユニット(SP-34)を接続してご利用ください。よりグランドピアノに近い、表現力豊かなペダル演奏が楽しめます。

【SP-34のペダル機能】

● ダンパーペダル
演奏中にこのペダルを踏むと、鍵盤を離してもその音の余韻が残ります。ペダルを途中まで踏んで浅く効果をかける「ハーフペダル」にも対応します。

● ソフトペダル
演奏中にこのペダルを踏むと、ペダルを踏んでから鍵盤で弾いた音が弱まるだけでなく、音色が柔らかく聞こえる効果が得られます。

● ソステヌートペダル
このペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、鍵盤を離してもペダルを離すまでその音の余韻が残ります。



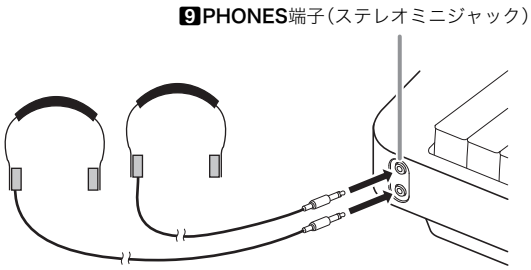
メモ

- 別売のペダルユニットと付属のペダルは、同時に利用できます。

ヘッドホンを使う

ヘッドホンを使用すると内蔵スピーカーから音が出なくなり、夜間でも周囲に気兼ねなく演奏が楽しめます。

- 本機の音量を絞ってから、ヘッドホンを**9 PHONES**端子に接続してください。



メモ

- ヘッドホンは本製品に付属されておりません。
- 別売または市販のヘッドホンがご使用になれます。

重要

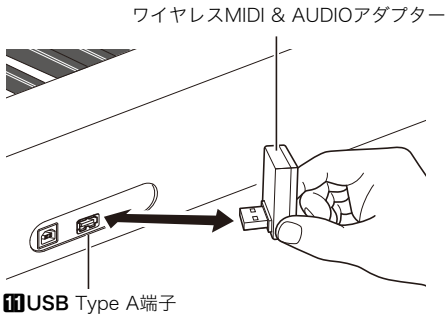
- **大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害になる恐れがあります。**
- **ヘッドホンのコードを本機から抜くときは、変換プラグだけを本機に残さないようにご注意ください。プラグが残っていると演奏しても音が出ません。**

■ヘッドホン接続中でもスピーカーから音を出すには

40ページ「その他の設定」の「スピーカーアウト」をオンにすると、**9 PHONES**端子にプラグが差し込まれていても、スピーカーから音が出るようになります。

付属のワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを使う

本機とBluetooth®無線技術に対応した外部機器をペアリングするには、ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを**11 USB** Type A端子に接続してください。



重要

- **ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを取り外すときは、本機の電源を切ってください。**

メモ

- Bluetoothに対応した外部機器と接続するときは、弊社ウェブサイトにある「ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプター × オーディオ＆パソコン接続ガイド」をご参照ください。
- ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターは、お住まいの国や地域によって販売していない場合があります。

共通の操作

重要

- **本書中の操作手順は、特に断りがなければ、本機の電源を入れた直後の状態から操作を開始することが前提となっています。操作がうまくいかないと感じたときは、いったん本機の電源を切り、電源を入れ直すことをおすすめします。**
- **何らかの操作の途中で本機の電源を切ると、未保存のデータは消失します。**

タッチボタンの操作

本機の電源を入れると、フロントパネル上にタッチボタンが点灯します。



重要

- **タッチボタンを操作するときは、素手の指でしっかりタッチしてください。手袋をした指には反応しません。**
- **タッチボタンが反応しない場合は、下記の操作を実行してください。下記操作により、タッチボタンの感度が高めに設定されます。**
  (1)本機の電源をいったん切る。
  (2)C8鍵盤(右端の鍵盤)を押したまま離さずに、1 ⏻(電源)ボタンを押す。
  - **C8鍵盤は、タッチボタンが左から右(3FUNCTION～8GRAND PIANO)に順次点灯しはじめるまで、離さないでください。1 ⏻(電源)ボタンは離して構いません。**

■タッチボタンの自動消灯(パネル消灯設定)について

省電力のため、一定時間ボタン操作をしなかったときに、**3FUNCTION**を除くボタンを自動的に消灯させる設定が可能です。消灯するまでの時間を指定したり、消灯しない設定(ACアダプター接続時の初期設定)にしたりできます。設定を変更する操作については、41ページ「パネル消灯設定を切り替えるには」をご参照ください。

メモ

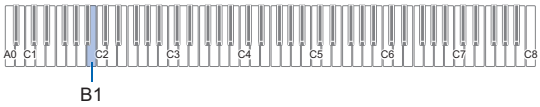
- タッチボタンが自動消灯した後で再び点灯させるには、**3FUNCTION**にタッチします。
- ACアダプターを使わずに乾電池だけで本機の電源を入れた場合、乾電池の持続時間を長くするために、パネル消灯設定がいったん強制的に60秒に設定されます。必要に応じて、パネル消灯設定を変更してください。
- 一度電源を切り、ACアダプターを接続してから電源を入れなおすと、パネル消灯設定がオフに設定されます(オートレジュームの設定がオフの場合)。

■タッチボタンを単独で操作する

ボタンにタッチする(指先でしっかりタッチしてすぐに離す)と、そのボタンの機能が実行されます。
例えば**8GRAND PIANO**にタッチするとGRAND PIANO音色が選ばれ、**5METRONOME**にタッチするとメトロノームが鳴り始めます(または停止します)。

■タッチボタンと鍵盤を組み合わせて操作する

タッチボタン(**7**●(REC)ボタンを除く)と鍵盤を同時に使うことで、本機のさまざまな設定を変更できます。JAZZ ORGAN音色を選ぶ操作例で説明します。



1. **8GRAND PIANO**を押さえたままにします。
- 手順3で**8GRAND PIANO**を離すまでは、鍵盤を使って、音色選択など設定の変更ができます。(可能なすべての操作は、別紙「鍵盤機能一覧」をご参照ください。)

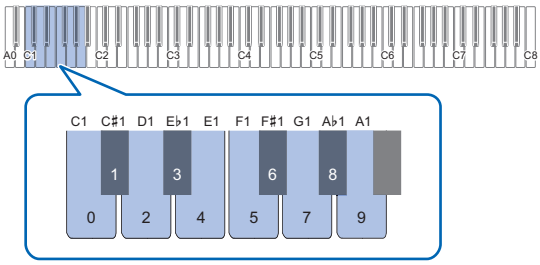
2. B1鍵盤を押します。
JAZZ ORGANの音色が選ばれ、確認音としてJAZZ ORGANの音が鳴ります。

3. **8GRAND PIANO**を離します。
- JAZZ ORGANの音で鍵盤演奏できます。

曲選択鍵盤(テンキー)を使って曲番号を入力する

1. 6▶/■を押さえたままにします。
- 手順3まで6▶/■を離さないでください。

2. C1～A1鍵盤を使って、曲番号を入力します。
- 曲番号は2桁で入力します。



曲番号	曲
1～60	ミュージックライブラリー内蔵曲
61～70	ユーザー曲
71	MIDIレコーダー曲

3. 曲番号を入力したら、6▶/■を離します。

通知音について

タッチボタンと鍵盤を組み合わせて操作する(8ページ)と、操作結果をお知らせする通知音が、鍵盤を押したときに鳴ります。通知音には下記のタイプがあります。

■通知音のタイプ

通知音タイプ	通知する内容
受付音	鍵盤操作を受け付けたことを表す音です。オン、オフの間で切り替わる設定項目では、設定がオンになったときにこの通知音が鳴ります。
無効音	誤った鍵盤を押したときに鳴る音で、この音が鳴ったときの鍵盤操作は無効です。
上限下限音	設定値の上限または下限を超えたときに鳴る音で、この音が鳴ったときの鍵盤操作は無効です。
初期値音	設定が初期値に戻ったときに鳴る音です。＋鍵盤と－鍵盤を同時に押したときなどに鳴ります。
番号通知音	1つの鍵盤を続けて押すことで、異なる設定値に切り替える場合に、現在の設定値を通知音が鳴る回数で示します。
オフ音	設定がオフに切り替わったときに鳴る音です。
区切り音	＋鍵盤や－鍵盤を使って設定値を増減させている途中で、区切りのよい数字になったときに鳴る音です。整数のみの設定値では、10の倍数になったときに区切り音が鳴ります。小数値がある設定値の場合(440.2など)は、設定値が整数(440や441など)になったときに区切り音が鳴ります。
完了音	設定のために複数の鍵盤を押すことが必要な場合、最後の鍵盤を押したときに、設定が完了したことを知らせる通知音です。例えばテンポの設定値(3桁)の入力中に、3桁目を入力するための鍵盤を押すと、この音が鳴ります。

■通知音セットについて

本機では、3種類の異なる通知音セットから1つを選ぶ(または通知音をオフにする)ことができます。通知音セットを切り替える操作は、40ページ「その他の設定」をご参照ください。

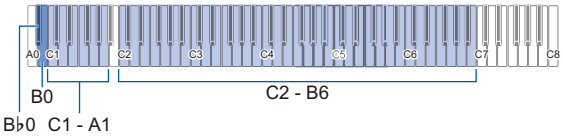
各種の操作

デモ演奏を聴く

1. **3**FUNCTIONを押さえたままにします。
DEMOが点滅し、**4**SOUND MODEが点灯します(その他のボタンは消灯します)。

2. **4**SOUND MODEにタッチします。
DEMOと**6**▶/■が点灯し、デモ曲(1曲)の再生が開始されます(**6**▶/■を除くボタンは消灯します)。終了すると、2曲目以降はミュージックライブラリー(22ページ)の曲が連続再生されます。

- デモ演奏中は、次の操作が可能です。



これをするには:	この操作をする:
次の曲にスキップする	**6**▶/■を押さえたまま、B0鍵盤を押す。
前の曲にスキップする	**6**▶/■を押さえたまま、B♭0鍵盤を押す。
特定の曲にスキップする	**6**▶/■を押さえたまま、C2鍵盤～B6鍵盤のいずれか1つを押す。
曲番号を入力してスキップする	**6**▶/■を押さえたまま、C1鍵盤～A1鍵盤で曲番号を入力する(曲番号0～60)。
1曲目(デモ曲)に戻る	**6**▶/■を押さえたまま、B♭0鍵盤とB0鍵盤を同時に押す。

- 曲番号の入力に使う鍵盤と入力方法は、9ページ「曲選択鍵盤(テンキー)を使って曲番号を入力する」をご参照ください。また、曲目については51ページ「ミュージックライブラリーリスト」をご参照ください。

3. デモ演奏を終了するには、**6**▶/■にタッチします。
消灯していたボタンが点灯に戻ります。

メモ

- オートパワーオフ機能が有効なときは、デモ演奏中でも一定時間で電源が切れます。オートパワーオフ機能は、6ページ「オートパワーオフ機能のオン／オフを切り替えるには」の操作で無効にできます。

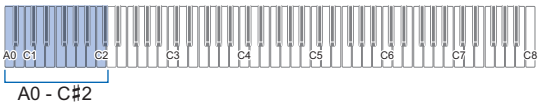
音色を選んで弾く

本機は3種類のグランドピアノを含む全鍵盤用の音色17種類と、低音部専用のベース音色1種類を内蔵しています。1つの音色を選んで鍵盤演奏できるほか、2つの音色を重ねて鳴らしたり(レイヤー)、低音部にベースを割り当てたり(スプリット)することが可能です。

音色を1つ選ぶ

■鍵盤を使って音色を選ぶには

1. **8**GRAND PIANOを押さえたまま、A0～C♯2鍵盤のいずれか1つを押します。



- 例えばF♯1鍵盤を押すとHARPSICHORDの音色が選ばれ、確認音としてHARPSICHORDの音が鳴ります。
- 各鍵盤で選べる音色は、50ページ「音色リスト」をご参照ください。

2. **8**GRAND PIANOを離します。

■タッチボタンで音色を選ぶには

8GRAND PIANOにタッチすると、GRAND PIANO CONCERTの音色が選ばれます。

- この操作で音色を選ぶと、レイヤー(11ページ)やスプリット(11ページ)は解除されます。

■グランドピアノ音色について

グランドピアノ音色3種類には、それぞれ下記のような特徴があります。

音色名	特徴
CONCERT(コンサート)	ダイナミックで自然な音色変化をする、フルコンサートグランドピアノ音色です。
BRIGHT(ブライト)	明るくてクリアなピアノ音色です。
MELLOW(メロー)	暖かみがあり落ち着いたピアノ音色です。

2つの音色を重ねる(レイヤー)

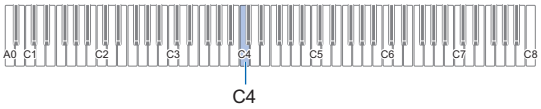
2つの音色を同時に鳴らすことができます。音色を重ねることから、この使い方を「レイヤー」と呼び、重ねる側の音色を「Upper2パートの音色」(以下「Upper2音色」)と呼びます。レイヤーを使うときのもう一方の音色は、「Upper1パートの音色」(以下「Upper1音色」)と呼びます。

■レイヤーを使って2音色を重ねて鳴らすには

1. 10ページ「音色を1つ選ぶ」の操作で、Upper1音色を選びます。

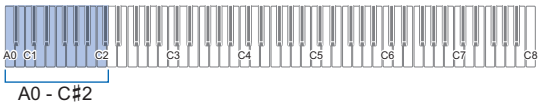
2. **8 GRAND PIANO**を押さえたままにします。
- 手順5まで**8 GRAND PIANO**を離さないでください。

3. C4鍵盤を押して、レイヤーをオンに切り替えます。



- C4鍵盤を押すたびに、レイヤーがオンとオフの間で切り替わります。通知音(9ページ)で設定がオンになったことを確認してください。

4. A0～C♯2鍵盤のいずれか1つを押して、Upper2音色を選びます。



- 例えばA♭1鍵盤を押すとUpper2音色としてSTRINGS 1の音色が選ばれ、確認音としてSTRINGS 1の音が鳴ります。
- 各鍵盤で選べる音色は、別紙「鍵盤機能一覧」の「GRAND PIANOボタン＋鍵盤」をご参照ください。

5. **8 GRAND PIANO**を離します。
- 1つの鍵盤を押しただけで、選んだ2つの音色(Upper1音色とUpper2音色)が同時に鳴ります。
- 再度Upper1音色だけで演奏したい場合は、レイヤーをオフに切り替えてください。

メモ

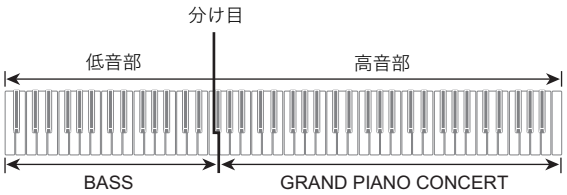
- Upper2パートの音量調節など、Upper2パートに関する設定を変更できます。詳しくは、37ページ「Upper2パートやLowerパートの設定を変更する」をご参照ください。
- Upper1パートの音量調節については、36ページ「Upper1パートの音量を調節する」をご参照ください。

■レイヤーを解除するには

次のいずれかの操作で解除できます。
- **8 GRAND PIANO**を押さえたまま、C4鍵盤を押す。
  C4鍵盤を押すたびに、レイヤーがオンとオフの間で切り替わります。通知音(9ページ)で設定がオフになったことを確認したら、**8 GRAND PIANO**を離してください。
- **8 GRAND PIANO**にタッチする。
  レイヤーが解除され、GRAND PIANO CONCERTの音色が選ばれます。

鍵盤を左右に分けて使う(スプリット)

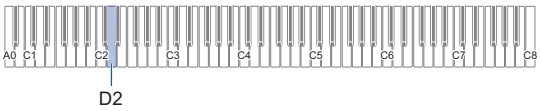
鍵盤の低音部でベースの音を鳴らすことができます。鍵盤全体を左右に分けることから、この使い方を「スプリット」と呼び、低音部の音色を「Lowerパートの音色」(以下「Lower音色」)と呼びます。高音部の音色は「Upper1パートの音色」(以下「Upper1音色」)と呼びます。
高音部には、ベースを除く17種類の音色を割り当てることができます。



■スプリットを使って低音部でベースを鳴らすには

1. 10ページ「音色を1つ選ぶ」の操作で、高音部で鳴らすための音色(Upper1音色)を選びます。

2. **8 GRAND PIANO**を押さえたまま、D2鍵盤を押します。
低音部にベースが割り当てられます。



3. **8 GRAND PIANO**を離します。

メモ

- Lowerパートの音量調節など、Lowerパートに関する設定を変更できます。詳しくは、37ページ「Upper2パートやLowerパートの設定を変更する」をご参照ください。

■スプリットを解除するには

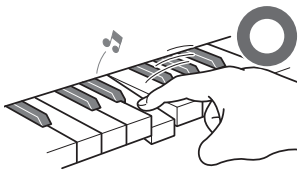
- **8 GRAND PIANO**にタッチする。
  スプリットが解除され、GRAND PIANO CONCERTの音色が選ばれます。

鍵盤を押す強弱で音量を変える（タッチレスポンス）

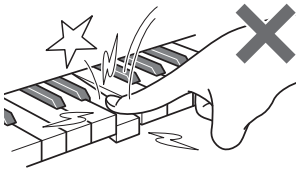
タッチレスポンス機能とは、鍵盤を押す強さ（速さ）で音量を変化させる機能です。タッチレスポンス機能を使うとアコースティックピアノのように鍵盤を押す強さ（速さ）で音量や音質が変化し、演奏の表現が豊かになります。



すばやく押すと大きな音が出ます



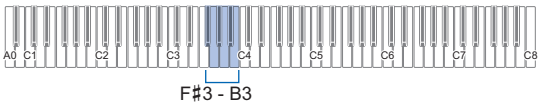
ゆっくり押すと小さな音が出ます



強く押しすぎないようにしましょう

■タッチレスポンスの感度を変更するには

1. **8**GRAND PIANOを押さえたまま、F♯3～B3鍵盤のいずれか1つを押します。



- 押した鍵盤に応じて、タッチレスポンスの感度が次のようになります。

鍵盤	設定値	設定内容
F♯3	オフ	タッチレスポンスを解除します。鍵盤を押す速度が変化しても音量は一定のままです。
G3	1:軽い	大きな音を出しやすい設定になり、「普通」よりもタッチが軽く感じられます。
A♭3	2:やや軽い	
A3	3:普通	標準的な設定です。
B♭3	4:やや重い	大きな音を出しにくい設定になり、「普通」よりもタッチが重く感じられます。
B3	5:重い	

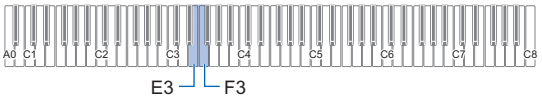
2. **8**GRAND PIANOを離します。

音の高さを半音単位で変更する（トランスポーズ）

音の高さを半音単位で全体的に上げたり下げたりします。難しい調（キー）を弾き慣れた調で弾きたい場合や、歌う人の声の高さに合わせて伴奏の調を上げ下げしたいときなどに便利です。

■トランスポーズするには

1. **8**GRAND PIANOを押さえたまま、E3鍵盤またはF3鍵盤を押します。



鍵盤	鍵盤を押したときの動作
E3	音の高さを半音下げます。
F3	音の高さを半音上げます。
E3＋F3	音の高さを初期設定に戻します。

- −12～＋12半音の間で変更できます。

2. 設定の変更が済んだら、**8**GRAND PIANOを離します。

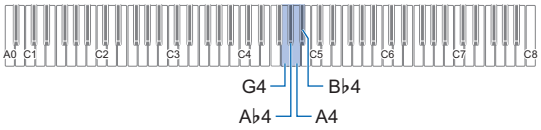
音の高さを微調整する（チューニング）

楽器の音の高さを、全体的に少しだけずらします。
- A4の音の周波数を設定します。周波数の設定範囲は415.5～465.9Hz（初期値440.0Hz）です。
- 0.1Hz単位で変更することができます。

■チューニングするには

1. **3**FUNCTIONを押さえたままにします。
- 手順3まで**3**FUNCTIONを離さないでください。

2. 下記の鍵盤を使って、調整します。



鍵盤	鍵盤を押したときの動作
G4	A4の音の周波数を0.1Hz下げます※。
A♭4	A4の音の周波数を0.1Hz上げます※。
A4	A4の音の周波数を440.0Hzにします。
B♭4	A4の音の周波数を442.0Hzにします。

※周波数が整数（440や441など）になると、区切り音（9ページ）が鳴ります。

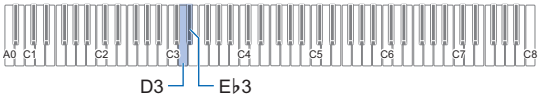
3. 調整が済んだら、**3**FUNCTIONを離します。
- 調整後のチューニング設定は、本機の電源を切っても保持されます。

音の高さをオクターブ単位で変更する（オクターブシフト）

Upper1パートとUpper2パートそれぞれの音の高さを、オクターブ単位で上げたり下げたりします。

■Upper1パートをオクターブシフトするには

1. **8**GRAND PIANOを押さえたまま、D3鍵盤またはE♭3鍵盤を押します。



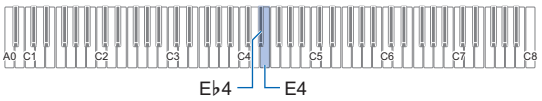
鍵盤	鍵盤を押したときの動作
D3	Upper1パートの音の高さを1オクターブ下げます。
E♭3	Upper1パートの音の高さを1オクターブ上げます。
D3＋E♭3	Upper1パートの音の高さを初期設定に戻します。

- −2～＋2オクターブの間で変更できます。

2. 設定の変更が済んだら、**8**GRAND PIANOを離します。

■Upper2パートをオクターブシフトするには

1. **8**GRAND PIANOを押さえたまま、E♭4鍵盤またはE4鍵盤を押します。



鍵盤	鍵盤を押したときの動作
E♭4	Upper2パートの音の高さを1オクターブ下げます。
E4	Upper2パートの音の高さを1オクターブ上げます。
E♭4＋E4	Upper2パートの音の高さを初期設定に戻します。

- −2～＋2オクターブの間で変更できます。

2. 設定の変更が済んだら、**8**GRAND PIANOを離します。

サウンドモード(ホールシミュレーターとサラウンド)を使う

4SOUND MODEボタンを使って、下記効果のオン／オフを切り替えることができます。

● ホールシミュレーター

透明感のある端正な響きや、伸びやかで華やかな響きなど、世界的に有名なコンサートホールや建築物内の、それぞれに異なる音響特性をシミュレートします。ホールシミュレーターは、内蔵音源に対してかかる効果の深さを設定することができます。

● サラウンド

擬似的な立体音響(バーチャルサラウンド効果)が得られます。

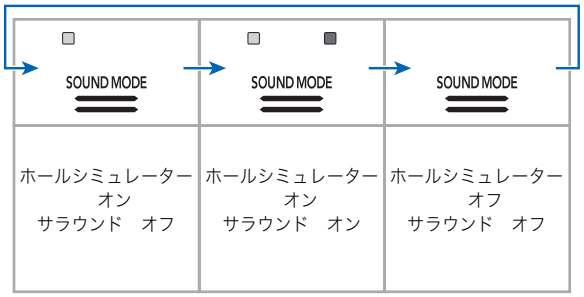
メモ

- 本機の電源を入れたときは、ホールシミュレーターはオン、サラウンドはオフの状態になっています。
- サラウンドの効果は、本機の**9**PHONES端子および**14**LINE OUT R、L/MONO端子からの出力音にはかかりません。

■ホールシミュレーターとサラウンドのオン／オフを切り替えるには

1. **4**SOUND MODEにタッチします。

- タッチするたびに、LEDの点灯状態が次のように切り替わります。



■ホールシミュレーターのタイプを選ぶには

1. **4**SOUND MODEを押さえたまま、A0～C1鍵盤のいずれか1つを押します。



A0 - C1

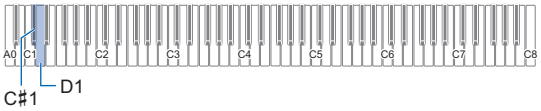
鍵盤	設定値	設定内容
A0	1:STANDARD HALL	一般的なコンサートホール
B♭0	2:OPERA HALL	ユニークな形状をしたシドニーのコンサートホール
B0	3:BERLIN HALL	ベルリンのアリーナ形式クラシックコンサートホール
C1	4:BRITISH STADIUM	ロンドン郊外の大型野外スタジアム

2. **4**SOUND MODEを離します。

■ホールシミュレーター効果の深さを調整するには

1. 「ホールシミュレーターのタイプを選ぶには」の手順1の操作で、ホールシミュレーターの種類を選びます。

2. 4 SOUND MODEを押さえたまま、下記の鍵盤を使って効果の深さを調整します。



鍵盤	鍵盤を押したときの動作
C♯1	内蔵音源に対する効果の深さを1レベル下げます。
D1	内蔵音源に対する効果の深さを1レベル上げます。
C♯1＋D1	内蔵音源に対する効果の深さを初期設定に戻します。

- 効果の深さは0(効果なし)～42(最大の深さ)の間で調整できます。鍵盤を押して設定値が10の倍数になったときには、区切り音(9ページ)が鳴ります。

3. 調整が済んだら、4 SOUND MODEを離します。

■サラウンドのタイプを選ぶには

1. 4 SOUND MODEを押さえたまま、F1(サラウンドタイプ1)またはF♯1(サラウンドタイプ2)鍵盤を押します。



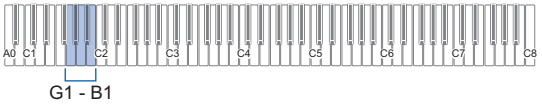
2. 4 SOUND MODEを離します。

コーラスを使う

コーラスは、音を重ねて厚みを増す効果です。

■コーラスをかけるには

1. 4 SOUND MODEを押さえたまま、G1～B1鍵盤のいずれか1つを押します。



鍵盤	設定値	設定内容
G1	Tone	音色ごとの初期設定にします。
A♭1	1	薄めのコーラス効果がかかります。
A1	2	中位のコーラス効果がかかります。
B♭1	3	深めのコーラス効果がかかります。
B1	4	フランジャー(音にうねりを与える効果)がかかります。

2. 4 SOUND MODEを離します。

ブリリアンスを使う

ブリリアンスを使うと、音の明るさを調節することができます。

■ブリリアンスを調節するには

1. 4 SOUND MODEを押さえたまま、C2またはC♯2鍵盤を押します。



鍵盤	鍵盤を押したときの動作
C2	ブリリアンスの設定値を1下げます。
C♯2	ブリリアンスの設定値を1上げます。
C2＋C♯2	ブリリアンスを初期設定に戻します。

- －3～＋3の間で設定値を変更できます。＋1以上のときは音が明るい感じになり、－1以下のときはまろやかな感じになります。

2. 設定の変更が済んだら、4 SOUND MODEを離します。

アコースティックピアノの音の特徴を調整する（アコースティックシミュレーター）

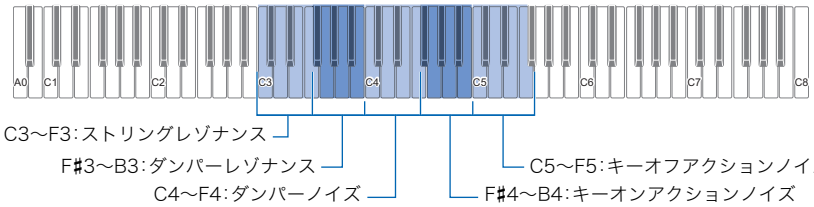
本機のピアノ音色は、アコースティックピアノの響きを特徴付ける要素を内蔵しています。下記の操作で、音の特徴を調整することができます。

■アコースティックピアノの音の特徴を調整するには

1. **4**SOUND MODEを押さえたままにします。

- 手順3まで**4**SOUND MODEを離さないでください。

2. 調整したい設定項目に応じて、下記の鍵盤を必要なだけ押します。



設定項目	設定値					
	Tone	オフ	1	2	3	4
ストリングレゾナンス	C3	C♯3	D3	E♭3	E3	F3
ダンパーレゾナンス	F♯3	G3	A♭3	A3	B♭3	B3
ダンパーノイズ	C4	C♯4	D4	E♭4	E4	F4
キーオンアクションノイズ	F♯4	G4	A♭4	A4	B♭4	B4
キーオフアクションノイズ	C5	C♯5	D5	E♭5	E5	F5

- 設定項目ごとに、設定値と対応する鍵盤を押します。例えば「ストリングレゾナンス」の設定値を「4」にしたい場合は、F3鍵盤を押します。
- 各設定項目と設定値の意味について詳しくは、17ページ「アコースティックピアノ音の設定項目一覧」をご参照ください。

3. 必要なすべての設定が済んだら、**4**SOUND MODEを離します。

■アコースティックピアノ音の設定項目一覧

設定項目	設定値と意味
ストリングレゾナンス(String Resonance) アコースティックピアノを弾くと、弾いた鍵盤の倍音となる弦が共鳴します。この共鳴の具合を選ぶことができます。	Tone: 音色ごとの初期設定にします。 オフ: ストリングレゾナンスを無効にします。 1〜4: 数値が大きいほど、ストリングレゾナンスによる共鳴が強くなります。
ダンパーレゾナンス(Damper Resonance) アコースティックピアノでダンパーペダルを踏んだとき、88鍵盤の弦がすべて開放されるため、弾いた鍵盤の倍音となる弦がすべて共鳴します。その共鳴の具合を選ぶことができます。	Tone: 音色ごとの初期設定にします。 オフ: ダンパーレゾナンスを無効にします。 1〜4: 数値が大きいほど、ダンパーレゾナンスによる共鳴が強くなります。
ダンパーノイズ(Damper Noise) アコースティックピアノでダンパーペダルを踏むと、ダンパーがピアノ線から離れるときに小さく「シャーン」というノイズが出ます。このノイズの音量を選ぶことができます。	Tone: 音色ごとの初期設定にします。 オフ: ダンパーノイズを鳴らしません。 1〜4: 数値が大きいほど、ノイズの音量が大きくなります。
キーオンアクションノイズ(Key On Action Noise) アコースティックピアノで大変弱く鍵盤を弾くと、ハンマーが弦に届かずにピアノの機構的な動作音(ノイズ)だけが聴こえます。このノイズの音量を選ぶことができます。	Tone: 音色ごとの初期設定にします。 オフ: キーオンアクションノイズを鳴らしません。 1〜4: 数値が大きいほど、ノイズの音量が大きくなります。
キーオフアクションノイズ(Key Off Action Noise) アコースティックピアノの鍵盤から指を離したとき、ピアノの機構的な動作音(ノイズ)が発生します。このノイズの音量を選ぶことができます。	Tone: 音色ごとの初期設定にします。 オフ: キーオフアクションノイズを鳴らしません。 1〜4: 数値が大きいほど、ノイズの音量が大きくなります。

メトロノームを使う

メトロノームは一定の間隔で拍子を刻みます。メトロノームを使うことで、一定のテンポを保つ練習ができます。

■メトロノームを鳴らすには、止めるには

1. **5**METRONOMEにタッチします。

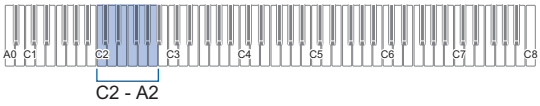
メトロノームがスタートします。

- メトロノームの拍子に合わせて、**6**▶/■ボタンの上にある黄色と赤のLEDが点滅します(1拍目:黄色、残りの拍:赤)。
- メトロノームのテンポ、拍子、音量を設定できます。下記をご参照ください。
  19ページ「テンポを設定する」
  18ページ「メトロノームの拍子を変えるには」
  18ページ「メトロノームの音量を調節するには」

2. メトロノームを止めるには、もう一度**5**METRONOMEにタッチします。

■メトロノームの拍子を変えるには

1. **5**METRONOMEを押さえたまま、C2～A2鍵盤のいずれか1つを押します。



- 押した鍵盤に応じて、拍子が次のように設定されます。

鍵盤	設定値	設定内容
C2	オフ	すべての拍でクリック音だけが鳴ります。
C♯2	1	すべての拍でベル音が鳴ります。
D2	2	2拍子～9拍子に設定します。1拍目にベル音が鳴り、残りの拍はクリック音が鳴ります。
E♭2	3	
E2	4	
F2	5	
F♯2	6	
G2	7	
A♭2	8	
A2	9	

2. **5**METRONOMEを離します。

■メトロノームの音量を調節するには

1. **5**METRONOMEを押さえたまま、B♭1鍵盤またはB1鍵盤を押します。



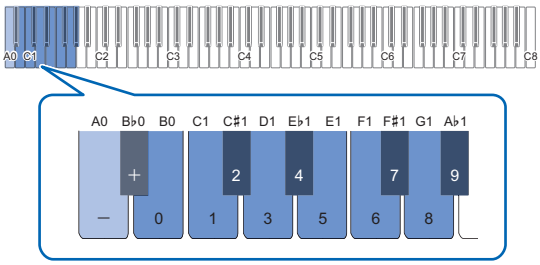
鍵盤	鍵盤を押したときの動作
B♭1	メトロノームの音量を1レベル下げます。
B1	メトロノームの音量を1レベル上げます。
B♭1＋B1	メトロノームの音量を初期設定に戻します。

- メトロノームの音量は0(無音)～42(最大音量)の間で調節できます。B♭1またはB1鍵盤を押して、設定値が10の倍数になったときには、区切り音(9ページ)が鳴ります。

2. **5**METRONOMEを離します。

テンポを設定する

メトロノーム(18ページ)や、ミュージックライブラリー(22ページ)の曲を再生する際のテンポを、20～255(拍/分)の間で設定できます。テンポの設定には、下記の鍵盤を使います。



■テンポの設定値を入力するには

1. **5**METRONOMEを押さえたままにします。
   - 手順3まで**5**METRONOMEを離さないでください。
2. B0～A♭1鍵盤を使って、テンポの設定値を入力します。
   - テンポの設定値は3桁で入力します。100(拍/分)未満のテンポを設定したいときは、数値の先頭に必ず「0」を付けてください。例えば80拍/分にしたい場合は、B0(0) → G1(8) → B0(0)の順に鍵盤を押します。3桁目まで入力すると、完了音(9ページ)が鳴ります。
   - ここでA0鍵盤またはB♭0鍵盤を押すことで、テンポを1ずつ上げ下げすることもできます。
   - A0鍵盤とB♭0鍵盤を同時に押すと、現在選択されているミュージックライブラリーの曲(22ページ)のテンポ初期値が設定されます。
3. 設定が済んだら、**5**METRONOMEを離します。

■テンポの設定値を1ずつ上げ下げするには

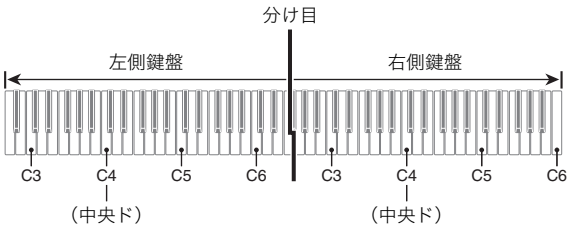
1. **5**METRONOMEを押さえたまま、A0またはB♭0鍵盤を必要なだけ押します。
   - A0鍵盤を押すたびにテンポの設定値が1下がり、B♭0鍵盤を押すたびに1上がります。
   - ここでB0～A♭1鍵盤を使って、テンポの設定値を入力することもできます。
2. **5**METRONOMEを離します。

メモ

- **12**DAMPER PEDALに接続したペダルを何度か踏んで、その間隔でテンポを設定することもできます。39ページ「ペダルの機能を切り替える」をご参照ください。

鍵盤を左右に分けて2人で弾く（デュエット）

鍵盤の中央から右側と左側で同じ音域にすることができます。左側で先生がお手本演奏をして、右側で生徒さんが同じメロディーを弾く、といった活用ができます。

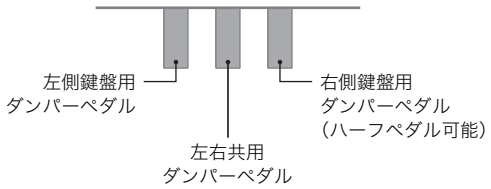


メモ

- 最初の設定から、左右の鍵盤それぞれの音域をオクターブ単位で変更できます。例えばピアノ曲の左手パートと右手パートを2人で分担して演奏しようとすると、最初の設定では音域が足りなくなりがちです。そのような場合に曲に合わせて音域を変更できます。
  設定の操作については、21ページ「音域を変更するには」をご参照ください。

■ペダルについて

- 別売のSP-34をお使いの場合、両端のペダルが、それぞれ左側鍵盤用と右側鍵盤用のダンパーペダルになります。3本のペダルのうち、右側鍵盤用ダンパーペダルのみハーフペダルに対応します。



- 付属のSP-3をお使いの場合、左右共用ダンパーペダルにするには、**12 DAMPER PEDAL**端子に接続します。このペダルは、39ページ「ペダルの機能を切り替える」で選んだペダル効果の種類にかかわらず、ダンパーペダルとして動作します。ハーフペダルには対応しません。

■デュエット機能を使うには

1. **3 FUNCTION**を押さえたまま、C6鍵盤を押します。



C6鍵盤を押して設定が切り替わるたびに、切り替わった後の設定状態を表す通知音が鳴ります。

通知音※	設定値	説明
オフ音	オフ	デュエット機能をオフにします。
番号通知音×1回	オン	デュエット機能をオンにします。
番号通知音×2回	パン	デュエット機能をオンにし、左側鍵盤の音は左スピーカーからのみ、右側鍵盤の音は右スピーカーからのみ出るようにします。

※9ページ「通知音について」をご参照ください。

2. 希望する設定に切り替わったら、**3 FUNCTION**を離します。

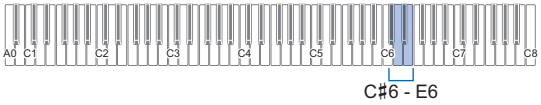
メモ

- デュエット機能の使用中は、一部の設定が変更できなくなります。
- デュエット機能の設定が「パン」の場合、ホールシミュレーター（14ページ）、サラウンド（14ページ）、コーラス（15ページ）は利用できません。

■音域を変更するには

1. **3**FUNCTIONを押さえたままにします。
- 手順3まで**3**FUNCTIONを離さないでください。

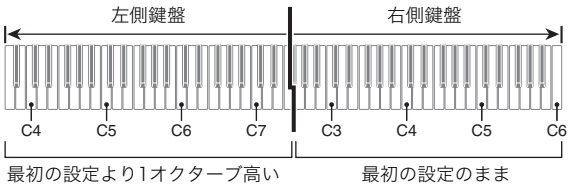
2. 下記の鍵盤を使って、デュエットの左側鍵盤と右側鍵盤それぞれの音域を変更します。



鍵盤	鍵盤を押したときの動作
C♯6	左側鍵盤の音域を1オクターブ下げます。
D6	左側鍵盤の音域を1オクターブ上げます。
C♯6＋D6	左側鍵盤の音域を初期設定に戻します。
E♭6	右側鍵盤の音域を1オクターブ下げます。
E6	右側鍵盤の音域を1オクターブ上げます。
E♭6＋E6	右側鍵盤の音域を初期設定に戻します。

- 各鍵盤の音域は、−2オクターブ〜＋2オクターブの間で設定できます。

【設定例】
D6鍵盤を1回押すと、音域は下記のようになります。



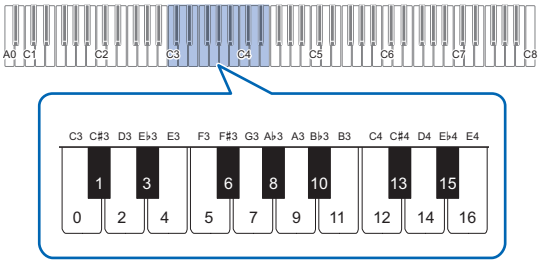
3. 各鍵盤の音域が希望する状態になったら、**3**FUNCTIONを離します。

鍵盤の音律（スケールチューニング）を変える

鍵盤の音律を設定して通常の音律（12平均律）以外の音律を使う音楽（インド音楽、アラビア音楽、クラシック音楽など）の演奏ができます。下記の17種類のプリセットの音律から、好きな音律を選ぶことができます。

■音律を変えるには

1. **3**FUNCTIONを押さえたまま、C3〜E4鍵盤のいずれか1つを押します。



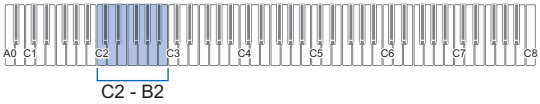
- 押した鍵盤に応じて、下表の音律に切り替わります。

鍵盤	設定値	音律名
C3	0	平均律（Equal）
C♯3	1	純正律長調（Pure Major）
D3	2	純正律短調（Pure Minor）
E♭3	3	ピタゴラス音律（Pythagorean）
E3	4	キルンベルガー第III法（Kirnberger 3）
F3	5	ヴェルクマイスター第1技法第3法（Werckmeister）
F♯3	6	ミーントーン（Mean-Tone）
G3	7	ラスト（Rast）
A♭3	8	バヤティ（Bayati）
A3	9	ヒジャーズ（Hijaz）
B♭3	10	サバ（Saba）
B3	11	ダシュティ（Dashti）
C4	12	チャハルガー（Chahargah）
C♯4	13	セガー（Segah）
D4	14	グジャリ・トーディ（Gurjari Todi）
E♭4	15	チャンドラコウンス（Chandrakauns）
E4	16	チャルケシ（Charukeshi）

2. **3**FUNCTIONを離します。

■音律の基音を設定するには

1. 3FUNCTIONを押さえたまま、C2～B2鍵盤のいずれか1つを押します。

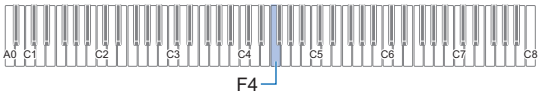


- 押した鍵盤の音が、基音として設定されます。

2. 3FUNCTIONを離します。

■ピアノのストレッチチューニングをオフにするには

1. 3FUNCTIONを押さえたまま、F4鍵盤を押します。



- ピアノのストレッチチューニングがオフになります。
- F4鍵盤を押すたびに、オンとオフの間で設定が切り替わります。

2. 3FUNCTIONを離します。

曲を聴く(ミュージックライブラリー)

ミュージックライブラリーを使って、ピアノの名曲の鑑賞と練習ができます。

- ミュージックライブラリーの内蔵曲は60曲(1～60番)です。
- スマートデバイスから本機に転送した曲や、USBメモリーから本機に読み込んだ曲(ユーザー曲)も、ミュージックライブラリーの61～70番の曲として再生や練習ができます。

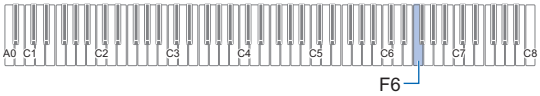
重要

- **ユーザー曲の追加は本機と接続したスマートデバイスやUSBメモリーから、ユーザー曲の削除は本機と接続したスマートデバイスから実行できます。詳しくは、43ページ「スマートデバイスとリンクする(APP機能)」、31ページ「USB メモリーを使用する」をご参照ください。**

■ミュージックライブラリー使用前の準備

ソングタイプがAudioモードになっている場合は、下記操作でMIDIモードに切り替えてください。

1. 3FUNCTIONを押さえたまま、F6鍵盤を押します。



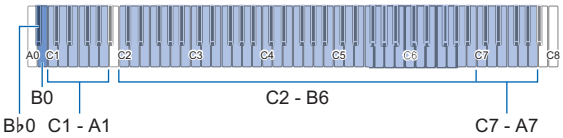
2. 3FUNCTIONを離します。

■ミュージックライブラリーの曲を聴くには

1. 22ページ「ミュージックライブラリー使用前の準備」を実行します。

2. 聴きたい曲を選びます。

(1) 6▶/■を押さえたまま、下記の鍵盤を押します。



鍵盤	鍵盤を押したときの動作
C1 - A1	入力した曲番号に応じて、内蔵曲(曲番号1~60)またはユーザー曲(曲番号61~70)が選択されます。
C2～B6	押した鍵盤に応じて、内蔵曲(曲番号1～60)が選択されます。
C7～A7	押した鍵盤に応じて、ユーザー曲(曲番号61～70)が選択されます。
B0	1つ後の曲番号を選択します。
B♭0	1つ前の曲番号を選択します。

- 曲番号の入力に使う鍵盤と入力方法は、9ページ「曲選択鍵盤(テンキー)を使って曲番号を入力する」をご参照ください。また、曲目については51ページ「ミュージックライブラリーリスト」をご参照ください。

(2) 6▶/■を離します。

3. 曲の再生を始めるには、6▶/■にタッチします。

- 曲の拍子に合わせて、6▶/■ボタンの上にある黄色と赤のLEDが点滅します(1拍目:黄色、残りの拍:赤)。
- 曲の終わりまで到達すると、再生は終了します。曲の途中で再生を止めるには、6▶/■にタッチします。

メモ

- 上記手順1の操作で曲を選ぶと、選んだ曲に適した設定が、自動的に反映されます。また、再生パート(23ページ)の設定は初期状態に戻ります。

■ミュージックライブラリーの曲を練習するには(再生パートを選んで曲を再生するには)

メモ

- 曲の右手パートまたは左手パートの音を消して、自分で弾く練習ができます。

1. 23ページ「ミュージックライブラリーの曲を聴くには」の手順1～2の操作で、練習したい曲を選びます。

2. 必要に応じて、19ページ「テンポを設定する」の操作で曲のテンポを設定します。

- 曲によっては、演奏表現のために途中でテンポが変化するものがあります。

3. 再生パート(右手パートまたは左手パート)を選びます。

(1) 6▶/■を押さえたまま、A0鍵盤(一番左端の白鍵)を押します。
A0鍵盤を押すたびに、"L"と"R"のインジケーターが下記のように切り替わります。
Lのみ点灯:左手を再生し、右手のパートを消します。
Rのみ点灯:右手を再生し、左手のパートを消します。
LRともに点灯:左右とも再生します。

(2) 6▶/■を離します。

4. 曲の再生を始めるには、6▶/■にタッチします。

- 音を消したパートを、再生に合わせて自分で弾きます。
- 再生中でも、テンポ設定を変更できます。
- 曲の終わりまで到達すると、再生は終了します。曲の途中で再生を止めるには、6▶/■にタッチします。

MIDIレコーダーで演奏を録音／再生する

本機による鍵盤演奏を、MIDIデータとして記録します。

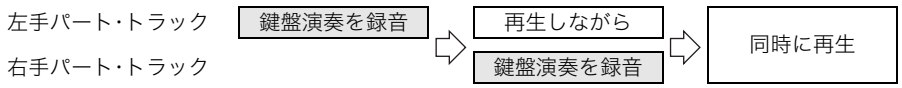
重要

- **本機の故障、修理などによる録音内容の消去により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。**

■MIDIレコーダーについて

本機はMIDIレコーダーとオーディオレコーダー、2つの録音機能を備えています。MIDIレコーダーは音そのもの（オーディオデータ）を記録するのではなく、鍵盤の演奏情報（鍵盤の押鍵や離鍵、タッチの強さなど）をMIDIデータ※として記録します。

- 録音可能な曲数は1曲です。新しく録音した時点で、前の録音内容は消去されます。
- 2つのトラックに録音できるので、左手パートと右手パートを別々に録音し、1曲に仕上げることもできます。



- 1曲に記録できる最大音符数は、2トラックの合計で約10,000音符です。

※MIDIとは
MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略で、メーカーを問わず、電子楽器同士あるいは電子楽器とコンピューター機器との間で演奏情報（鍵盤の押鍵や離鍵、タッチの強さなど）をやり取りできるように定めた統一規格のことです。やり取りする演奏情報をMIDIデータと呼びます。

■MIDIレコーダーで記録される内容

MIDIレコーダーを使った録音では、下記の操作や設定が、本機の内蔵メモリーに記録されます。

- 鍵盤演奏およびペダル操作
- 音色
- テンポ※
- 拍子※
- レイヤー設定（左手パート・トラックのみ）
- スプリット設定（左手パート・トラックのみ）
- デュエット（左手パート・トラックのみ）
- サウンドモード（ホールシミュレータータイプ、内蔵音源に対するホールシミュレーターデプス、サラウンドタイプ）、コーラス、ブリリアンス※
- アコースティックシミュレーターの設定※
- 音律※
- ストレッチチューニング※

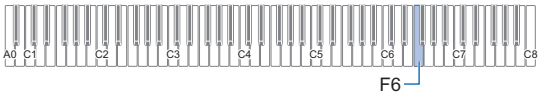
※両方のトラックに共通。左手パート・トラックに対する設定が、右手パート・トラックにも適用されます。

■MIDIレコーダー使用前の準備

本機はMIDIレコーダーとオーディオレコーダー、2つの録音機能を備えています。録音または再生したいデータのタイプに応じて、MIDIモードとオーディオモードの間で切り替えることが必要です。

- MIDIレコーダーは、本機がMIDIモードのときに利用可能です。本機がオーディオモードになっている場合は、下記操作でMIDIモードに切り替えてください。
- 本機の初期設定はMIDIモードなので、初期設定を変更していない場合、下記操作は不要です。

1. **3**FUNCTIONを押さえたまま、F6鍵盤を押します。



2. **3**FUNCTIONを離します。

録音する

重要

- **録音中に残り音符数が100以下になると録音中トラックを表すインジケーター(LまたはR)の点滅が速くなり、残りがなくなると録音が停止します。**
- **録音中に電源が切れると、録音してあった内容はすべて消去されます。**
- **鍵盤を使った各種の設定操作は、録音待ちの状態や録音中はできません。**

メモ

- 下記操作を始める前に、25ページ「MIDIレコーダー使用前の準備」をお読みください。

■クイックガイド:演奏を最も簡単に録音するには

1. **7**●(REC)(白色で点灯)にタッチします。
録音待ちの状態になり、**7**●(REC)(赤色)と**6**▶/■(白色)が点滅します。

2. 録音を始めるには、鍵盤演奏を開始します。
7●(REC)(赤色)が点滅から点灯に切り替わり、録音中になったことを表します。

3. 録音を終了するには、**7**●(REC)または**6**▶/■にタッチします。
7●(REC)が白色点灯に戻ります。

4. 録音内容を再生するには、**6**▶/■にタッチします。

メモ

- 上記の操作では、鍵盤演奏は左手パート・トラックに録音されます。より詳細な操作手順は、26ページ「左手パート・トラックに録音するには」をご参照ください。

■左手パート・トラックに録音するには

1. 録音先のトラックに応じて、必要な項目を設定します。
   - 24ページ「MIDIレコーダーで記録される内容」をご参照ください。
   - 拍子とテンポを設定したい場合は、下記を参照して設定してください。
     18ページ「メトロノームの拍子を変えるには」
     19ページ「テンポを設定する」
2. 7●(REC)(白色で点灯)にタッチします。
   録音待ちの状態になり、7●(REC)(赤色)と6▶/■(白色)が点滅します。
   - このとき、"L"のインジケーターが点滅します。これは、左手パート・トラックが録音対象であることを表します。
   - 録音の操作をやめるには、ここで7●(REC)にタッチします。7●(REC)が白色点灯に戻ります。
3. 録音中にメトロノームを鳴らしたい場合は、5METRONOMEにタッチします。
4. 録音を開始するには、鍵盤で演奏を始めるか、ペダルを踏むか、6▶/■にタッチします。
   7●(REC)(赤色)が点滅から点灯に切り替わります。
5. 録音を終了するには、7●(REC)または6▶/■にタッチします。
   7●(REC)が白色点灯に戻ります。
6. 録音内容を再生するには、6▶/■にタッチします。

メモ

録音中に最初から弾き直したくなったときは

- ミスタッチなどで最初から録音をやり直したい場合は、録音中(上記手順4の操作後)に7●(REC)を、点滅するまで押さえ続けます。左手パート・トラックへの録音内容が破棄され、録音待ちの状態に戻るので、上記手順4から再開できます。

■左手パート・トラックの録音内容に重ねて右手パート・トラックに録音するには

1. 26ページ「左手パート・トラックに録音するには」の手順1～2を実行します。
2. 7●(REC)を押さえ続け、"R"と"L"のインジケーターが下記の状態になったら離します。
   - "R"のインジケーターが点滅します。これは、右手パート・トラックが録音対象であることを表します。
   - "L"のインジケーターは点滅から点灯に変わります。これは左手パート・トラックに録音済みであることを表します。
3. 必要に応じて、録音中に左手パート・トラックを再生するか、しないかを指定します。
   (1) 6▶/■を押さえたまま、A0鍵盤(一番左端の白鍵)を押します。
   A0鍵盤を押すたびに、"L"のインジケーターが点灯と消灯の間で切り替わります。
   L点灯:録音中に左手パート・トラックを再生します。
   L消灯:録音中に左手パート・トラックを再生しません。
   (2) 6▶/■を離します。
4. 録音中にメトロノームを鳴らしたい場合は、5METRONOMEにタッチします。
5. 録音を開始するには、鍵盤で演奏を始めるか、ペダルを踏むか、6▶/■にタッチします。
   7●(REC)(赤色)が点滅から点灯に切り替わります。
   - 拍子とテンポは、左手パート・トラック録音時の設定が適用されます。
6. 26ページ「左手パート・トラックに録音するには」の手順5以降を実行します。

メモ

録音中に最初から弾き直したくなったときは

- ミスタッチなどで最初から録音をやり直したい場合は、録音中(上記手順5の操作後)に7●(REC)を、点滅するまで押さえ続けます。右手パート・トラックへの録音内容が破棄され、録音待ちの状態に戻るので、上記手順5から再開できます。

■各トラックへの録音内容を消去するには

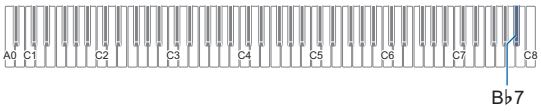
1. **7**●(REC)(白色で点灯)にタッチします。
   録音待ちの状態になり、**7**●(REC)(赤色)と**6**▶/■(白色)が点滅します。
   - このとき、"L"のインジケーターが点滅します。左手パート・トラックを消去したい場合は、このまま手順3に進みます。
2. 右手パート・トラックを消去したい場合は、"R"のインジケーターが点滅するまで、**7**●(REC)を押さえ続けます。
3. **6**▶/■にタッチします。
   7●(REC)(赤色)が点滅から点灯に切り替わります。
4. **7**●(REC)を、点滅するまで押さえ続けます。
   指定したトラックの録音内容が消去されます。
5. **7**●(REC)にタッチして、録音待ちの状態から抜けます。

録音した内容を再生する

録音した直後は、**6**▶/■にタッチすれば録音した内容が再生されます。ミュージックライブラリーの曲を再生したり、本機の電源を切ったりした後で、録音した内容を再生したいときは、下記を実行してください。

■再生するには

1. **6**▶/■を押さえたまま、B♭7鍵盤を押します。



2. **6**▶/■を離します。
3. 曲の再生を始めるには、**6**▶/■にタッチします。
   - 曲の終わりまで到達すると、再生は終了します。曲の途中で再生を止めるには、**6**▶/■にタッチします。

オーディオレコーダーで演奏を録音する

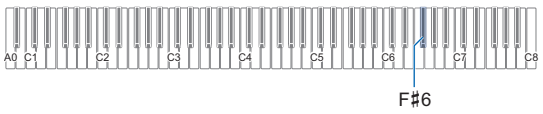
本機による鍵盤演奏を、オーディオデータとして記録します。記録内容は、WAVファイル(リニアPCM、16bit、44.1kHz、ステレオ)の形式で、本機の**11**USB Type A端子に接続したUSBメモリーに保存されます。

重要

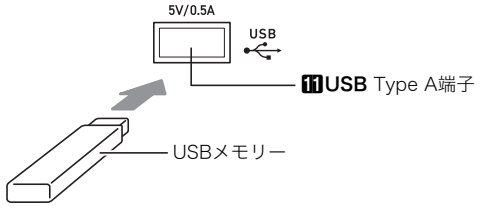
- **オーディオレコーダーによる録音中あるいは再生中は、USBメモリーを取り外さないでください。USBメモリーのデータが壊れたり、11USB Type A端子が故障したりする場合があります。**
- **USBメモリーの取り扱いについて詳しくは、31ページ「USB メモリーを使用する」をご参照ください。**
- **本機が対応しているUSBメモリーのフォーマットについては、31ページ「使用可能なUSBメモリー」をご参照ください。**

■オーディオレコーダー使用前の準備

1. 次の操作で、本機をオーディオモード※に切り替えます。
   (1) **3**FUNCTIONを押さえたまま、F♯6鍵盤を押します。



   (2) **3**FUNCTIONを離します。
2. USBメモリーを、本機の**11**USB Type A端子へ差し込みます。



   - 確実に奥まで差し込んでください。また、無理な挿入はしないでください。
   - 本機がUSBメモリーを認識すると、**4**SOUND MODEと**6**▶/■ボタンの上にあるLEDが順次点灯します。マウント中は、何も操作せずにしばらくお待ちください。

※本機はMIDIレコーダーとオーディオレコーダー、2つの録音機能を備えています。録音または再生したいデータのタイプに応じて、MIDIモードとオーディオモードの間で切り替えることが必要です。

■鍵盤演奏をUSBメモリーに録音するには

1. 27ページ「オーディオレコーダー使用前の準備」を実行します。

2. 7 ●(REC)(白色で点灯)にタッチします。
   録音待機状態になり、7 ●(REC)(赤色)と6 ▶/■(白色)が点滅します。
   - 録音をやめる場合は、もう一度7 ●(REC)にタッチします。

3. 録音を始めるには、鍵盤を弾くか、6 ▶/■にタッチします。
   7 ●(REC)(赤色)が点滅から点灯に切り替わり、録音中になったことを表します。

メモ

- オーディオレコーダーでの録音可能時間は最大約25分で、この時間が経過すると録音は自動的に終了します。録音可能な時間が残りわずかになると7 ●(REC)が点滅を始めるので、点滅を確認したら、録音を早めに終了してください。
- ミスタッチなどで最初から録音をやり直したい場合は、録音中(上記手順3の操作後)に7 ●(REC)を、点滅するまで押さえ続けます。右手パート・トラックへの録音内容が破棄され、録音待ちの状態に戻るので、上記手順3から再開できます。

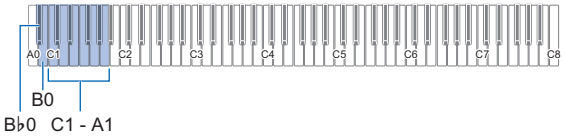
4. 録音を終了するには、7 ●(REC)または6 ▶/■にタッチします。
   7 ●(REC)が白色点灯に戻ります。
   - 録音内容が、USBメモリーにWAVファイルとして保存されます。録音した順番で「TAKE01.WAV」から「TAKE99.WAV」までのファイル名が自動的に付きます。
   - 保存されたファイルが自動的に選択されます。

5. 今録音した内容をすぐに再生するには、6 ▶/■にタッチします。

■オーディオレコーダーで録音したファイルを選んで再生するには

1. 27ページ「オーディオレコーダー使用前の準備」を実行します。

2. 6 ▶/■を押さえたまま下記鍵盤を押して、聴きたい曲を選びます。



鍵盤	鍵盤を押したときの動作
C1 - A1	TAKE**.WAV(** = 01～99)の番号を、鍵盤を使って入力します。
B0	1つ後の番号を選択します。
B♭0	1つ前の番号を選択します。

   - 番号の入力に使う鍵盤と入力方法は、9ページ「曲選択鍵盤(テンキー)を使って曲番号を入力する」をご参照ください。

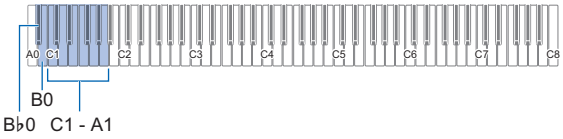
3. 6 ▶/■を離します。

4. 再生を開始するには、6 ▶/■にタッチします。
   - 最後まで再生されると、再生は停止します。途中で再生を停止するには、6 ▶/■にタッチします。

■オーディオレコーダーで録音したファイルを削除するには

1. 27ページ「オーディオレコーダー使用前の準備」を実行します。

2. **6**▶/■を押さえたまま下記鍵盤を押して、削除したいファイルを選びます。



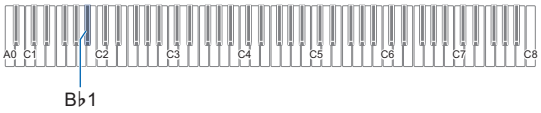
鍵盤	鍵盤を押したときの動作
C1 - A1	TAKE**.WAV(** = 01～99)の番号を鍵盤を使って入力します。
B0	1つ後の番号を選択します。
B♭0	1つ前の番号を選択します。

- 番号の入力に使う鍵盤と入力方法は、9ページ「曲選択鍵盤(テンキー)を使って曲番号を入力する」をご参照ください。

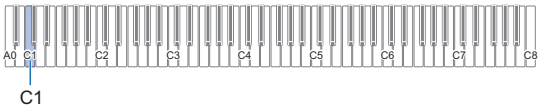
3. **6**▶/■を離します。

4. **3**FUNCTIONを押さえたままにします。
- 手順6まで**3**FUNCTIONを離さないでください。

5. B♭1鍵盤を押します。



6. C1鍵盤を押します。
削除が実行されます。



7. **3**FUNCTIONを離します。

曲を聴く(MIDIプレーヤー)

本機はMIDIプレーヤー機能(MIDIデータの再生機能)を備えています。

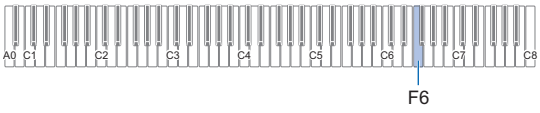
■再生可能な曲について

曲の種類	説明
ユーザー曲	お好きな曲を、最大10曲までユーザー曲(曲番号61～70)として追加できます。ユーザー曲を追加するには、USBメモリーまたはスマートデバイスに本機で利用可能な曲データ(1曲あたり最大90KB)を保存して、その曲データを本機に転送します。詳しくは、33ページ「USBメモリーの各種操作」および43ページ「スマートデバイスとリンクする(APP機能)」をご参照ください。再生方法については、22ページ「曲を聴く(ミュージックライブラリー)」をご参照ください。
MIDI レコーダー曲	本機のMIDIレコーダーで録音した曲です。24ページ「MIDIレコーダーで演奏を録音／再生する」をご参照ください。
USB メモリー曲	USBメモリーに保存されている標準MIDIファイル(SMFフォーマット0/1)またはカシオMIDIファイル(CMF形式)を本機に読み込まなくても簡単に再生することができます。再生方法については、30ページ「USBメモリー曲を選んで再生するには」をご参照ください。保存のしかたについては、35ページ「一般の曲データをパソコンでUSBメモリーにコピーする」をご参照ください。

■MIDIプレーヤー使用前の準備

次の操作で、本機をMIDIモード※に切り替えます。

1. **3**FUNCTIONを押さえたまま、F6鍵盤を押します。

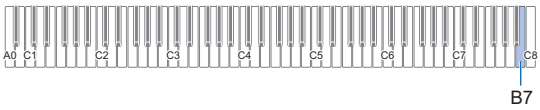


2. **3**FUNCTIONを離します。

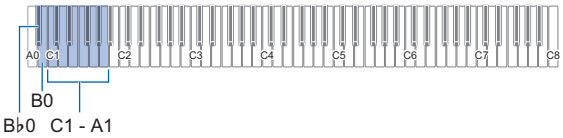
※本機はMIDIレコーダーとオーディオレコーダー、2つの録音機能を備えています。録音または再生したいデータのタイプに応じて、MIDIモードとオーディオモードの間で切り替えることが必要です。

■USBメモリー曲を選んで再生するには

1. 29ページ「MIDIプレーヤー使用前の準備」を実行します。
2. 曲を保存済みのUSBメモリーを、本機の11USB Type A端子へ差し込みます。
   - USBメモリーの取り扱いについて詳しくは、31ページ「USB メモリーを使用する」をご参照ください。
3. 6▶/■を押さえたまま、B7鍵盤を押します。



4. 6▶/■を押さえたまま下記鍵盤を押して、聴きたい曲を選びます。



鍵盤	鍵盤を押したときの動作
C1 - A1	00～99の番号を、鍵盤を使って入力します。番号はファイル名順です。
B0	1つ後の番号を選択します。
B♭0	1つ前の番号を選択します。

   - 番号の入力に使う鍵盤と入力方法は、9ページ「曲選択鍵盤（テンキー）を使って曲番号を入力する」をご参照ください。

メモ

- 指定した番号のファイルが存在しない場合は、通知音が鳴ります。

5. 6▶/■を離します。
6. 選択した曲を再生するには、6▶/■にタッチします。
   - 曲の最後まで再生されると、再生は終了します。曲の途中で再生を止めるには、6▶/■にタッチします。

■片手パートの音を消して曲を再生するには（消したパートを自分で弾いて練習するには）

メモ

- 下記の操作は、USBメモリー曲で可能です。

1. 30ページ「USBメモリー曲を選んで再生するには」の手順1～4の操作で、練習したい曲を選びます。
2. 必要に応じて、19ページ「テンポを設定する」の操作で曲のテンポを設定します。
3. 再生パート（右手パートまたは左手パート）を選びます。
   (1) 6▶/■を押さえたまま、A0鍵盤（一番左端の白鍵）を押します。
   A0鍵盤を押すたびに、“L”と“R”のインジケーターが下記のように切り替わります。
   Lのみ点灯：左手を再生し、右手のパートを消します。
   Rのみ点灯：右手を再生し、左手のパートを消します。
   LRともに点灯：左右とも再生します。
   (2) 6▶/■を離します。
4. 曲の再生を始めるには、6▶/■にタッチします。
   - 音を消したパートを、再生に合わせて自分で弾きます。
   - 再生中でも、テンポ設定を変更できます。
   - 曲の終わりまで到達すると、再生は終了します。曲の途中で再生を止めるには、6▶/■にタッチします。

メモ

- USBメモリーに保存されている標準MIDIファイル（SMF形式）を再生する場合、3chが左手パート、4chが右手パートとなります。

USB メモリーを使用する

市販のUSBメモリーを使って、本機で下記のことができます。

USBメモリー上の曲データを再生

パソコンを使ってUSBメモリーに保存した一般の曲データ（MIDIファイル）を、本機で再生することができます。

- USBメモリーに曲データを保存する操作については、35ページ「一般の曲データをパソコンでUSBメモリーにコピーする」をご参照ください。
- 曲データの再生操作については、29ページ「曲を聴く（MIDIプレーヤー）」をご参照ください。

演奏をUSBメモリーに録音

本機による演奏をオーディオデータとしてUSBメモリーに記録できます。27ページ「オーディオレコーダーで演奏を録音する」をご参照ください。

各種データの保存と読み込み

本機に記録したMIDIレコーダー曲をUSBメモリーに保存したり、本機で保存したデータや本機と互換性のあるデータ（ユーザー曲など）を読み込んだりすることができます。詳しくは、33ページ「USBメモリーの各種操作」をご参照ください。

使用可能なUSBメモリー

容量：32GB以下を推奨

重要

- **上記製品での動作確認結果は、その動作を保証するものではありません。**
- **FAT（FAT32またはexFAT）フォーマットのUSBメモリーをご使用ください。**
- **パソコン上で複数のドライブとして認識されるUSBメモリーは、使用できないことがあります。**
- **パソコン上でCD-ROMとして認識されるUSBメモリーは使用できません。**
- **アンチウイルス機能やセキュリティー機能などの特殊機能付きUSBメモリーは使用できません。**

USBメモリーとUSB Type A端子の取り扱い上のご注意

重要

- **USBメモリーに付属している取扱説明書の注意事項をお守りください。**
- **以下のような場所での保管や使用は避けてください。USBメモリー上のデータが壊れる場合があります。**
  - **高温多湿、または腐食性のある場所**
  - **強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい場所**
- **データを保存したり読み込んでいるときには、本機を操作したりUSBメモリーを取り外したりしないでください。USBメモリーのデータが壊れたり、11USB Type A端子が故障したりする場合があります。**
- **長時間使用すると、取り外したUSBメモリーが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。**
- **11USB Type A端子に、手やUSBメモリーから静電気が伝わると、本機が誤動作する場合があります。このような場合は、一度本機の電源を切ってから、再び電源を入れてください。**

著作権について

個人で楽しむなどのほかは、音声／音楽フォーマットファイルを権利者に無断で複製することは著作権法や国際条約で固く禁じられています。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず権利者に無断でネット上で記載したり、第三者に配布することも著作権法や国際条約で固く禁止されています。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

USBメモリーを本機に装着する、USBメモリーを本機から取り外す

重要

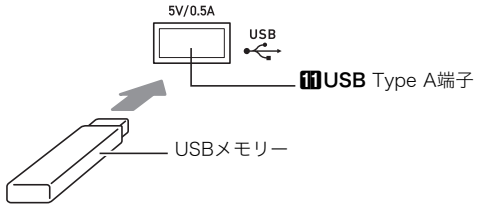
- **USBメモリーを本機に装着して最初にUSBメモリーを操作するとき、あるいは電源投入後に最初にUSBメモリーを操作するとき、本機のシステムがUSBメモリーとデータをやり取りする準備(マウント)を行うため、一時的に本機の操作ができなくなる場合があります。マウント中は、4SOUND MODEと6▶/■ボタンの上にあるLEDが順次点灯します。本機がマウントを完了し、操作が可能になるまで数十秒間かかることがあります。マウント中は、本機を操作しないでください。マウントは、本機にUSBメモリーを装着するたびに実行されます。**

メモ

- USBメモリーが本機にマウントされると、ルートディレクトリに"MUSICDAT"という名前のフォルダが作成されます(USBメモリーに"MUSICDAT"フォルダがない場合)。本機とUSBメモリーの間でデータをやりとりする際は、このフォルダを使います。

■USBメモリーを本機に装着するには

1. 下図のように、USBメモリーを本機の11USB Type A端子へ差し込みます。



- 確実に奥まで差し込んでください。また、無理な挿入はしないでください。

■USBメモリーを本機から取り外すには

1. データをやりとり中でないことを確認してから、USBメモリーを水平にしたまま抜きます。

USBメモリーをフォーマットする

重要

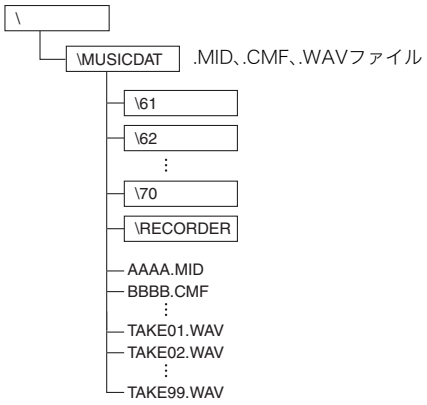
- **最初に、必ず本機でUSBメモリーをフォーマットしてください。**
- **USBメモリーをフォーマットすると、USBメモリー内のデータはすべて削除されます。フォーマットする前に、USBメモリーに大切なデータが保存されていないことをご確認ください。**
- **本機でのフォーマットは、クイックフォーマットを実行します。データを完全に消去するにはパソコンなどで通常のフォーマットを行ってください。**
- **exFATフォーマットの場合、長い名前のファイルがあると、読み込めるファイル数に制限がかかる場合があります。**

■USBメモリーをフォーマットするには

USBメモリーのフォルダ構造図

本機でUSBメモリーをフォーマットすると、以下の図のようにフォルダが自動的に生成されます。

【USBメモリー】



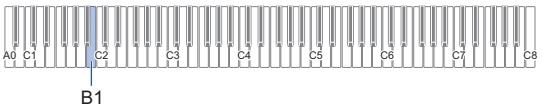
1. フォーマットするUSBメモリーを、本機の11USB Type A端子に装着します。

2. 3FUNCTIONを押さえたままにします。

- 手順5まで3FUNCTIONを離さないでください。

3. B1鍵盤を押します。

6▶/■のLED(右)が点滅し、フォーマット待機状態になります。



4. C1鍵盤を押します。

フォーマットが実行されます。フォーマット中は、**4**SOUND MODEと**6**▶/■ボタンの上にあるLEDが順次点灯します。



5. フォーマットが開始されたら、**3**FUNCTIONを離します。

フォーマットが終了すると、LEDが元に戻ります。

USBメモリーの各種操作

ここでは、次の各種操作について説明します。

- MIDIレコーダー曲をUSBメモリーに保存する
- USBメモリー上のデータ(ファイル)を本機に読み込む
- USBメモリー上にある本機が読み込み可能なデータ(ファイル)を消去する

■データタイプ一覧

本機で扱うことが可能なデータのタイプは、下表のとおりです。

● 本機→USBメモリー

下記のデータは、本機からUSBメモリーに保存できます。

データタイプ	拡張子
MIDIレコーダー曲	MRF、MID

● USBメモリー→本機

下記のデータは、USBメモリーから本機への読み込み※および消去が可能です。

データタイプ	拡張子
ユーザー曲	CMF、MID(SMFフォーマット0/1)
MIDIレコーダー曲	MRF
オーディオデータ※	WAV

※オーディオデータは削除が可能ですが、本機への読み込みはできません。

重要

- **上記の表中に掲載されている拡張子を持つファイルであっても、本機とは互換性のない機種で作成したデータなど、本機で読み込むことができない場合があります。**

■MIDIレコーダー曲をUSBメモリーに保存するには

1. USBメモリーを、本機の**11**USB Type A端子に装着します。

2. SMFフォーマット(.MID)で保存する場合、次の操作を実行します。

(1) 本機をMIDIモードに切り替えます。

- 29ページ「MIDIプレーヤー使用前の準備」をご参照ください。

(2) 保存先フォルダ(61～70)に対応するユーザー曲の番号を選択します。

- 曲番号の入力に使う鍵盤と入力方法は、9ページ「曲選択鍵盤(テンキー)を使って曲番号を入力する」をご参照ください。

3. **3**FUNCTIONを押さえたままにします。

- 手順6まで**3**FUNCTIONを離さないでください。

4. G1鍵盤またはA♭1鍵盤のどちらかを押します。

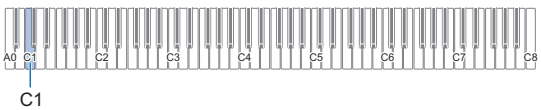
4SOUND MODEのLED(左)が点滅し、保存待機状態になります。



G1:SMFフォーマット(.MID)で保存
A♭1:カシオ専用フォーマットファイル(.MRF)で保存

5. C1鍵盤を押します。

保存が実行されます。処理中は、**4**SOUND MODEと**6**▶/■ボタンの上にあるLEDが順次点灯します。



6. 保存が開始されたら、**3**FUNCTIONを離します。

保存が終了すると、LEDが元に戻ります。

■USBメモリーから本機へデータを読み込むには

1. 本機に読み込むデータを、USBメモリーの“MUSICDAT”フォルダの中にあるサブフォルダにコピーします。

データタイプ	サブフォルダ
ユーザー曲(CMF, MID)	61～70
MIDIレコーダー曲(MRF)	RECORDER

- 読み込みできるのは各サブフォルダの1曲のみです。複数のファイルがある場合は、ファイル名順の先頭ファイルが読み込まれます。

2. USBメモリーを、本機の**11**USB Type A端子に装着します。

3. 本機をMIDIモードに切り替えます。

- 29ページ「MIDIプレーヤー使用前の準備」をご参照ください。

4. 読み込むデータに対応するユーザー曲またはMIDIレコーダー曲の番号を選択します。

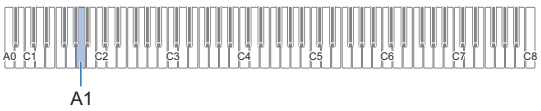
- 曲番号の入力に使う鍵盤と入力方法は、9ページ「曲選択鍵盤(テンキー)を使って曲番号を入力する」をご参照ください。

5. **3**FUNCTIONを押さえたままにします。

- 手順8まで**3**FUNCTIONを離さないでください。

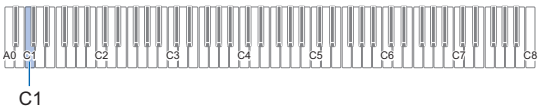
6. A1鍵盤を押します。

4SOUND MODEのLED(右)が点滅し、読み込み待機状態になります。



7. C1鍵盤を押します。

読み込みが実行されます。処理中は、**4**SOUND MODEと**6**▶/■ボタンの上にあるLEDが順次点灯します。



8. 読み込みが開始されたら、**3**FUNCTIONを離します。

読み込みが終了すると、LEDが元に戻ります。

■USBメモリーのデータを消去するには

USBメモリーの以下のデータを削除します。

- MUSICDATフォルダの中の「61」～「70」フォルダ、および「RECORDER」フォルダに保存している曲
- MUSICDATフォルダに保存しているTAKE01.WAV～TAKE99.WAVのオーディオソングデータ

1. USBメモリーを、本機の**11**USB Type A端子に装着します。

2. 削除するデータを選択します。

■ ユーザー曲またはMIDIレコーダー曲を削除する場合

(1) 本機をMIDIモードに切り替えます。
- 29ページ「MIDIプレーヤー使用前の準備」をご参照ください。

(2) 削除するデータに対応するユーザー曲またはMIDIレコーダー曲の番号を選択します。
- 曲番号の入力に使う鍵盤と入力方法は、9ページ「曲選択鍵盤(テンキー)を使って曲番号を入力する」をご参照ください。

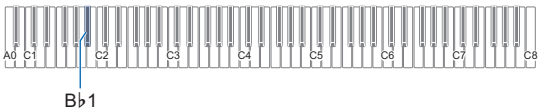
■ オーディオデータを削除する場合

(1) 本機をオーディオモードに切り替えます。
- 27ページ「オーディオレコーダー使用前の準備」をご参照ください。

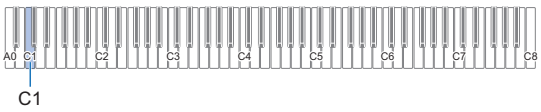
(2) 削除するデータに対応するオーディオデーターの番号を選択します。
- データ番号の入力に使う鍵盤と入力方法は、9ページ「曲選択鍵盤(テンキー)を使って曲番号を入力する」をご参照ください。

3. **3**FUNCTIONを押さえたままにします。
- 手順6まで**3**FUNCTIONを離さないでください。

4. B♭1鍵盤を押します。
6▶/■のLED(左)が点滅し、削除待機状態になります。



5. C1鍵盤を押します。
削除が実行されます。処理中は、**4**SOUND MODEと**6**▶/■ボタンの上にあるLEDが順次点灯します。



6. 削除が開始されたら、**3**FUNCTIONを離します。
削除が終了すると、LEDが元に戻ります。

一般の曲データをパソコンでUSBメモリーにコピーする

USBメモリーの“MUSICDAT”フォルダに下記の形式のファイルを保存して、本機で再生することができます。

- 標準MIDIファイル(SMFフォーマット0/1)またはカシオMIDIファイル(CMF形式)

1. USBメモリーをパソコンにつなぎます。

2. USBメモリーのルートディレクトリに、“MUSICDAT”という名前のフォルダを作成します。
- すでに“MUSICDAT”フォルダがある場合は、この手順は不要です。

3. 本機で再生したい曲データを、USBメモリー内のMUSICDATフォルダにコピーします。
- 曲データの再生操作については、29ページ「曲を聴く(MIDIプレーヤー)」をご参照ください。

一般のオーディオデータ(WAVファイル)をUSBメモリーに保存する

本機のオーディオレコーダーで録音操作をすると、USBメモリー内にMUSICDATフォルダが生成され、その下に「TAKE01.WAV」から「TAKE99.WAV」までファイル名を変えながら、WAVファイルが格納されていきます。USBメモリーをパソコンにつなぎ、一般のオーディオデータ(WAVファイル)をファイル名を「TAKEXX※.WAV」に変更してこのMUSICDATフォルダに保存すると、本機で再生できます。

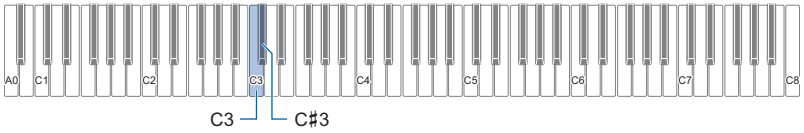
※XX=01～99

対応WAV形式(リニアPCM、16bit、44.1kHz、ステレオ)

設定を変更する

Upper1パートの音量を調節する

Upper1パートの音量を調節するには、**8 GRAND PIANO**を押さえたまま、下記の鍵盤を押します。

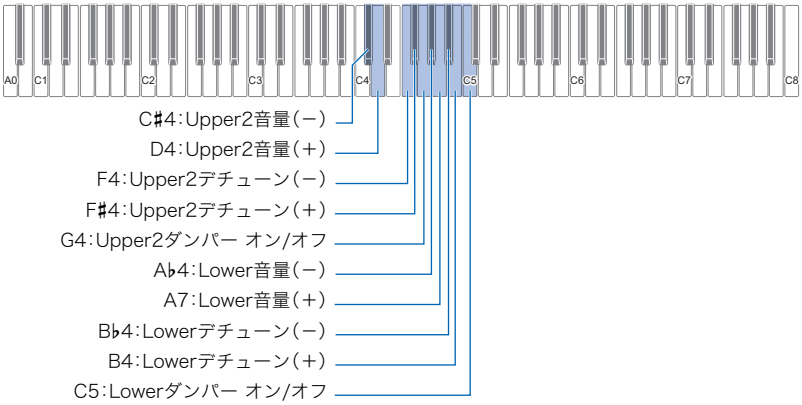


鍵盤	鍵盤を押したときの動作
C3	Upper1パートの音量を1下げます※1。
C♯3	Upper1パートの音量を1上げます※1。
C3＋C♯3	Upper1パートの音量を初期設定に戻します。

※1 音量は0～42の間で調節できます。設定値が10の倍数になったときには、区切り音(9ページ)が鳴ります。

Upper2パートやLowerパートの設定を変更する

Upper2パートとLower(ベース)パートそれぞれについて、音量、音高、ダンパーペダル効果のかかり方を設定できます。設定するには、**8 GRAND PIANO**を押さえたまま、下記の鍵盤を押します。

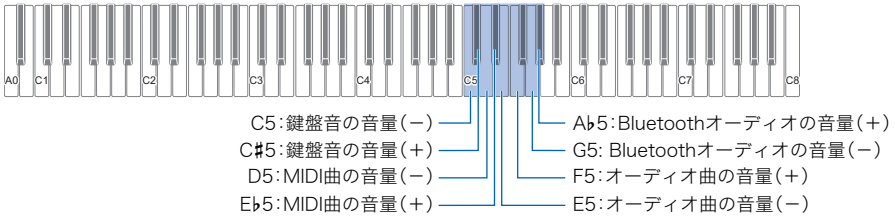


設定項目	鍵盤	鍵盤を押したときの動作
Upper2音量 Upper2パートの音量を調節します。	C♯4	Upper2パートの音量を1下げます※1※2。
	D4	Upper2パートの音量を1上げます※1※2。
	C♯4+D4	Upper2パートの音量を初期設定に戻します。
Upper2デチューン Upper1パートに対するUpper2パートの相対的な音の高さを、±99セントの間で上げ下げします。	F4	Upper2パートの音の高さを1セント下げます※2。
	F♯4	Upper2パートの音の高さを1セント上げます※2。
	F4+F♯4	Upper2パートの音の高さをUpper1パートと同じにします(初期設定)。
Upper2ダンパー Upper2パートに対してダンパーペダルの効果がかかるか、かからないかを設定します。	G4	押すたびにオンとオフの間で設定が切り替わります。
Lower音量 Lowerパートの音量を調節します。	A♭4	Lowerパートの音量を1下げます※1※2。
	A4	Lowerパートの音量を1上げます※1※2。
	A♭4+A4	Lowerパートの音量を初期設定に戻します。
Lowerデチューン Upper1パートに対するLowerパートの相対的な音の高さを、±99セントの間で上げ下げします。	B♭4	Lowerパートの音の高さを1セント下げます※2。
	B4	Lowerパートの音の高さを1セント上げます※2。
	B♭4+B4	Lowerパートの音の高さをUpper1パートと同じにします(初期設定)。
Lowerダンパー Lowerパートに対してダンパーペダルの効果がかかるか、かからないかを設定します。	C5	押すたびにオンとオフの間で設定が切り替わります。

※1 音量は0〜42の間で調節できます。
※2 設定値が10の倍数になったときには、区切り音(9ページ)が鳴ります。

音量のバランスを調節する

鍵盤演奏、曲の再生、外部入力音声それぞれの音量を、個別に調節できます。
調節するには、**3 FUNCTION**を押さえたまま、下記の鍵盤を押します。

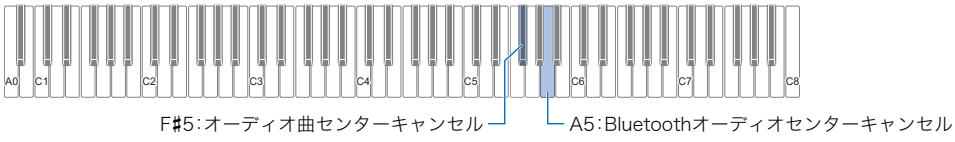


設定項目	鍵盤	鍵盤を押したときの動作
鍵盤音の音量 全体の音量に対する鍵盤演奏の音量を、0（無音）〜42（最大音量）の間で調節します。	C5	鍵盤音の音量を1下げます※1。
	C♯5	鍵盤音の音量を1上げます※1。
	C5＋C♯5	鍵盤音の音量を初期値に戻します。
MIDI曲の音量 全体の音量に対する曲（内蔵曲、ユーザー曲、MIDIレコーダー曲、USBメモリー曲）の再生音量を、0（無音）〜42（最大音量）の間で調節します。	D5	MIDI曲の音量を1下げます※1。
	E♭5	MIDI曲の音量を1上げます※1。
	D5＋E♭5	MIDI曲の音量を初期値に戻します。
オーディオ曲の再生音量 全体の音量に対するオーディオ曲※2の再生音量を、0（無音）〜42（最大音量）の間で調節します。	E5	オーディオ曲の再生音量を1下げます※1。
	F5	オーディオ曲の再生音量を1上げます※1。
	E5＋F5	オーディオ曲の再生音量を初期値に戻します。
Bluetoothオーディオ再生音量 全体の音量に対するBluetoothオーディオの再生音量を、0（無音）〜42（最大音量）の間で調整します。	G5	Bluetoothオーディオの再生音量を1下げます※1。
	A♭5	Bluetoothオーディオの再生音量を1上げます※1。
	G5＋A♭5	Bluetoothオーディオの再生音量を初期値に戻します。

※1 設定値が10の倍数になったときには、区切り音（9ページ）が鳴ります。
※2 USBメモリーに保存されているオーディオデータ（WAV）の入力音声です。

センターキャンセル機能を使う

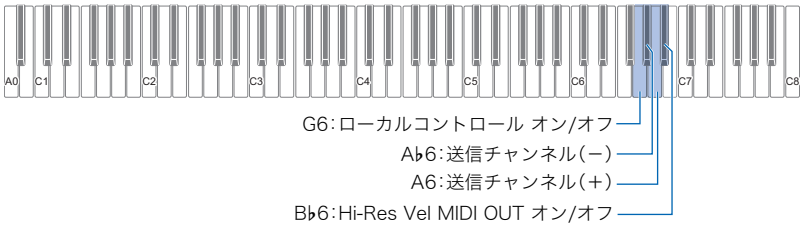
センターキャンセルをオンにすると、USBメモリーに保存されているオーディオ曲またはBluetoothオーディオの入力音声のボーカルがカット（消去、低減）されます。センター定位の音をキャンセルする機能なので、ボーカル以外の音もカットされる場合があります。効果の度合いは、入力する音によって異なります。
センターキャンセルの設定を切り替えるには、**3 FUNCTION**を押さえたまま、下記の鍵盤を押します。



設定項目	鍵盤	鍵盤を押したときの動作
オーディオ曲センターキャンセル オーディオ曲のセンター定位の音をキャンセルします。	F♯5	押すたびにオンとオフの間で設定が切り替わります。
Bluetoothオーディオセンターキャンセル Bluetoothオーディオのセンター定位の音をキャンセルします。	A5	押すたびにオンとオフの間で設定が切り替わります。

MIDI設定を変更する

MIDI設定を変更するには、**3**FUNCTIONを押さえたまま、下記の鍵盤を押します。



設定項目	鍵盤	鍵盤を押したときの動作
ローカルコントロール この設定をオフに切り替えると、本機による演奏情報(MIDIデータ)は出力されますが、本機自体の音は出なくなります。これは、MIDIデータを外部機器のみに送信するための設定です。	G6	押すたびにオンとオフの間で設定が切り替わります。
送信チャンネル 本機の鍵盤演奏情報を外部機器に送信するときに使うMIDIチャンネルを、1 ch～16 chの間で設定します。	A♭6	送信チャンネルを1下げます。
	A6	送信チャンネルを1上げます。
	A♭6＋A6	送信チャンネルを初期値(1)に戻します。
Hi-Reso Velocity MIDI Out 鍵盤を弾いたときのタッチ強弱(Velocity)を高分解能でMIDI出力する(オン)か、しない(オフ)かを設定します。	B♭6	押すたびにオンとオフの間で設定が切り替わります。

ペダルの機能を切り替える

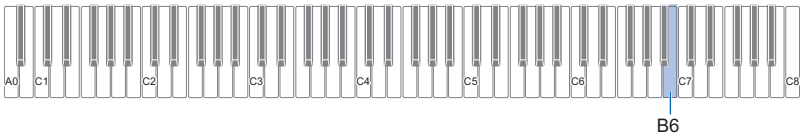
本機の**12**DAMPER PEDALに接続したペダルは、初期設定ではダンパーペダルとして機能します。下記の操作で、他の機能に切り替えることができます。

■DAMPER PEDAL端子に接続したペダルの機能を切り替えるには

1. **3**FUNCTIONを押さえたままにします。

- 手順3まで**3**FUNCTIONを離さないでください。

2. B6鍵盤を押します。



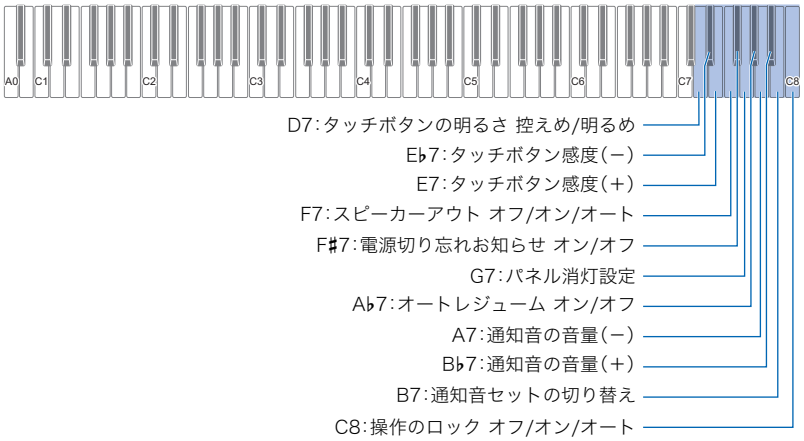
B6鍵盤を押して設定が切り替わるたびに、切り替わった後の設定に応じた回数の通知音が鳴ります。

通知音	設定値	設定内容
1回	ダンパー	演奏中にペダルを踏むと、鍵盤を離してもその音の余韻が残ります。オルガンなど、鍵盤を押している間音が持続する音色では、ペダルを踏んでいる間、音が鳴り続けます。
2回	ソステヌート	ペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、鍵盤を離してもペダルを離すまでその音の余韻が残ります。
3回	ソフト	ペダルを踏んでいる間に弾いた音が若干小さくなることに加え、音が柔らかく聴こえる効果が得られます。
4回	メトロノーム	ペダルを踏むことで、メトロノームを鳴らしたり止めたりすることができます。
5回	テンポ設定	ペダルを2回以上踏むと、踏んだ間隔に応じたテンポが設定されます。

3. 希望する設定に切り替わったら、**3**FUNCTIONを離します。

その他の設定

下表の各種設定を変更するには、**3 FUNCTION**を押さえたまま、下記の鍵盤を押します。



設定項目	鍵盤	鍵盤を押したときの動作
タッチボタンの明るさ タッチボタンの明るさを、1「控えめ」、2「明るめ」の間で切り替えます。	D7	押すたびに1と2の間で設定が切り替わります。
タッチボタン感度 タッチボタンの感度を、−1（低感度）〜0（標準）〜＋1（高感度）の間で調節します。	E♭7	タッチボタン感度を1下げます。
	E7	タッチボタン感度を1上げます。
スピーカーアウト 本設定をオートにすると、**9 PHONES**端子にプラグが挿入されているときは、本機のスピーカーから音は出ません（初期設定時）。**9 PHONES**端子にプラグが挿入されていてもいなくても、オンにするとスピーカーから音が出て、オフにするとスピーカーから音が出ません。	F7	押すたびにオフ、オン、オートの順に設定が切り替わります。 オフ：オフ音 オン：番号通知音1回 オート：番号通知音2回
電源切り忘れお知らせ 電源切り忘れお知らせ機能（6ページ）が働くか（オン）、働かないか（オフ）を切り替えます。	F♯7	押すたびにオンとオフの間で設定が切り替わります。
パネル消灯設定 省電力のため、一定時間タッチボタン操作をしなかったときに、**3 FUNCTION**を除くタッチボタンが消灯するように設定できます。消灯するまでの時間は、5、30、60、120秒から選ぶことができます。また、消灯しないようにも設定できます（オフ）。	G7	41ページ「パネル消灯設定を切り替えるには」をご参照ください。
オートレジューム 本設定をオンにすると、本機の電源を切ってもほとんどの設定が保持されます※1。	A♭7	押すたびにオンとオフの間で設定が切り替わります。
通知音の音量 通知音の音量を、0（無音）〜10（最大音量）の間で調節します。	A7	通知音の音量を1下げます。
	B♭7	通知音の音量を1上げます。
	A7＋B♭7	通知音の音量を初期値に戻します。
通知音セットの切り替え 本機は操作の結果を音でお知らせします。3種類の異なる通知音セットから、好みの通知音を選ぶことができます。	B7	押すたびに、通知音設定がセット1〜セット3の間で切り替わります。

設定項目	鍵盤	鍵盤を押したときの動作
操作のロック 本設定をオンにすると、**3**FUNCTIONを除くすべてのタッチボタンが消灯し、下記以外の操作が無効になります。また、オートにすると、演奏中は操作が無効になります※2。 • **1** ⏻（電源）ボタンで電源を切る操作（電源を切ると、操作のロックは解除されます） • 操作のロックを解除するためのタッチボタン操作	C8	押すたびにオフ、オン、オートの順に設定が切り替わります。オンに設定した後でも、**3**FUNCTIONを押さえたままC8鍵盤を押すと、設定を切り替えることができます。 オフ：オフ音 オン：番号通知音1回 オート：番号通知音2回

※1 下記の設定は、オートレジュームがオンでも電源を切ると保持されません。
デュエット設定、曲の再生パート設定、ローカルコントロール、操作のロック（オンのみ）
※2 鍵盤またはペダルが1つでも押されている場合に演奏中と判断して操作のロックをします。

■パネル消灯設定を切り替えるには

1. **3**FUNCTIONを押さえたままにします。
• 手順3まで**3**FUNCTIONを離さないでください。

2. G7鍵盤を押します。
G7鍵盤を押して設定が切り替わるたびに、切り替わった後の設定状態を表す通知音が鳴ります。

通知音※	設定	説明
オフ音	オフ	タッチボタンが消灯しません。
番号通知音×1回	5秒	フロントパネル操作をせずに設定時間が経過すると、**3**FUNCTIONを除くタッチボタンが消灯します。
番号通知音×2回	30秒	
番号通知音×3回	60秒	
番号通知音×4回	120秒	

※9ページ「通知音について」をご参照ください。

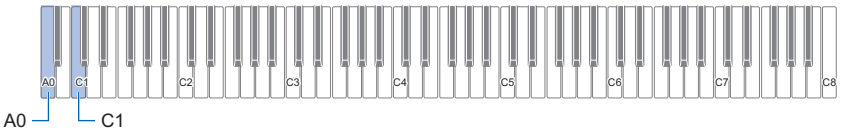
3. 希望する設定に切り替わったら、**3**FUNCTIONを離します。

メモ

• ACアダプターを使わずに乾電池だけで本機の電源を入れた場合、乾電池の持続時間を長くするために、パネル消灯設定がいったん強制的に60秒に設定されます。必要に応じて、パネル消灯設定を変更してください。

ファクトリーリセット(初期化)

下記の操作で、本機のデータや設定などシステムの内容をすべて初期化して、工場から出荷したときの状態に戻すことができます。



1. **3**FUNCTIONを押さえたままにします。

2. A0鍵盤を押します。

初期化の待機状態になり、**3**FUNCTIONが点滅します。

- 次の操作で初期化が実行されます。初期化をやめるには、ここで**3**FUNCTIONを離してください。

3. 初期化を実行するには、C1鍵盤を押します。

初期化が開始されます。

4. **3**FUNCTIONを離します。

- 初期化には、しばらく時間がかかることがあります。完了するまでお待ちください。初期化が完了すると、本機フロントパネル部のすべてのタッチボタン(**3**FUNCTION～**8**GRAND PIANO)が点灯します。

スマートデバイスとリンクする(APP 機能)

本機をスマートフォンやタブレットなどのスマートデバイスと接続すると、次のことができます。
- スマートデバイスから本機を操作(ピアノリモートコントローラー)
- スマートデバイスから楽曲データを本機に転送

■スマートデバイス用アプリをダウンロードする

弊社ウェブサイトからスマートデバイス用アプリをダウンロードして、お使いのスマートデバイスにインストールしてください。
https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S1100/

スマートデバイスと接続する

Bluetooth機能で接続する方法と、市販のUSBケーブルで接続する方法があります。

重要

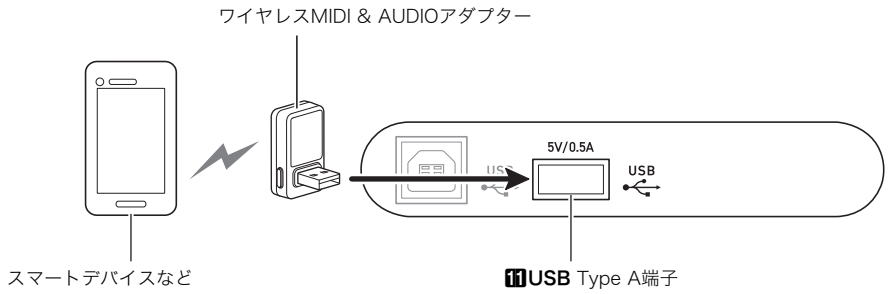
- **スマートデバイス用アプリ(弊社製)をお使いいただく場合、Bluetooth機能での接続とUSBケーブルでの接続は同時にしないでください。**

■本機とスマートデバイスをBluetooth機能で接続する

ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターをお使いいただくことにより、Bluetooth機能で接続することができます。

1. 43ページ「スマートデバイス用アプリをダウンロードする」を参照し、お使いのスマートデバイスに、アプリをインストールします。

2. ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを⓫USB Type A端子に接続します(7ページ)。
   - 本機とスマートデバイスを接続した後は、各種操作をスマートデバイス上のアプリで実施します。各種操作について詳しくは、アプリの説明書をご覧ください。



重要

- **スマートデバイス用アプリで接続待ちの間は、本機の操作をしないでください。**
- **Bluetooth接続では、通信環境やスマートデバイスの性能により、音の歪みが目立つ場合があります。このような場合は、以下のことをお試しください。**
  - **アプリの説明書で、MIDI再生品質を確認する。**
  - **Wi-Fi接続している場合は、Wi-Fi機能をオフにする。**
  - **ケーブルで接続する。**

■本機とスマートデバイスをケーブルで接続する

1. 43ページ「スマートデバイス用アプリをダウンロードする」を参照し、お使いのスマートデバイスに、アプリをインストールします。

2. 本機の⑩USB Type B端子とスマートデバイスの端子を、市販のUSBケーブルで接続します。
   - 本機とスマートデバイスを接続した後は、各種操作をスマートデバイス上のアプリで実施します。各種操作について詳しくは、アプリの説明書をご覧ください。

重要

- **接続するスマートデバイスは、機内モードなどのモバイルデータ通信を行わない設定にしてください。**
- **USBケーブルとオーディオケーブルを、同時にスマートデバイスに接続しないでください。**
- **2m以下のUSBケーブルで接続してください。**

困ったときは

● タッチボタンが反応しない。

原因:
a. タッチボタンに手袋をした手でタッチしたり、爪やスタイラスなどでタッチした。
b. タッチボタン感度の設定が適正でない。

対処:
a. 素手の指でしっかりとタッチボタンにタッチする。
b. 下記操作を実行する(タッチボタンの感度が高めに設定されます)。
(1) 本機の電源をいったん切る。
(2) C8鍵盤(右端の鍵盤)を押したまま離さずに、**1** ⏻(電源)ボタンを押す。
• C8鍵盤は、タッチボタンが左から右(**3**FUNCTION～**8**GRAND PIANO)に順次点灯しはじめるまで、離さないでください。**1** ⏻(電源)ボタンは離して構いません。

● 鍵盤を押しても音が出ない。

原因:
a. **2** 音量つまみで音量が絞られている。
b. ヘッドホンがつながっている。またはヘッドホンの変換プラグが**9**PHONES端子に残っている。
c. ローカルコントロールの設定がオフになっている。

対処:
a. **2** 音量つまみを動かす。
b. ヘッドホンまたは変換プラグを**9**PHONES端子から抜く。
c. ローカルコントロール(39ページ)の設定をオンにする。

● 大きな音を出すと、突然電源が切れる。

対処: 新しい電池に交換する。またはACアダプターを使用する(4ページ)。

● ピッチがずれて聴こえる。

原因:
a. 鍵盤の調(トランスポーズ)が初期設定から変更されている。
b. 音の高さの微調整(チューニング)の設定が440.0Hz以外になっている。
c. オクターブシフトが設定されている。
d. 音律が"平均律"以外に設定されている。

対処:
a. トランスポーズ(12ページ)の設定を初期設定に戻す。または、電源を入れ直す。
b. チューニング(13ページ)の設定を440.0Hzにする。Upper2デチューン、Lowerデチューン(37ページ)を初期設定に戻す。
c. オクターブシフト(13ページ)の設定を"0"にする。
d. 音律の設定を"平均律"にする。

● ペダルを踏んでも効果がかからない。

原因: **12**DAMPER PEDAL端子(または**13**PEDAL UNIT端子)に、ペダルのコードが正しく接続されていない。または、プラグの差し込み方が不完全になっている。

対処: ペダルのコードが正しく接続されているか、プラグがしっかりと端子に差し込まれているかを確認する。

● 音の鳴り方や効果がおかしい。弾き方(タッチ)を変えても音に強弱がつかない。電源を入れ直しても変わらない。

原因: オートレジュームがオンになっている。

対処: オートレジューム(40ページ)をオフにして、電源を入れ直す。

● パソコンと接続したとき、データの送受信ができない。

対処:
a. 本機とパソコンがUSBケーブルで正しく接続されているか、あるいはパソコンの音楽ソフトの設定でデバイスが正しく選ばれているか確認する。
b. 本機の電源を切ってパソコンの音楽ソフトを終了させてから、本機の電源を入れてパソコンの音楽ソフトを再起動させてみる。

● 同じ音色で鍵盤の位置によって音質や音量が若干異なる音色がある。

原因: デジタルサンプリングという電子処理※によって発生する音域の境目で、故障ではありません。
※元になっている楽器音の音域ごとの音質を再現するために、低域・中域・高域など複数の音域ごとに元の楽器音を録音し、ひとつの音色に仕上げる処理。

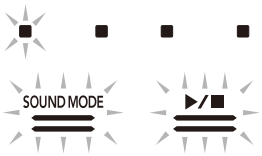
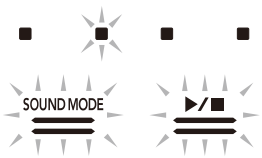
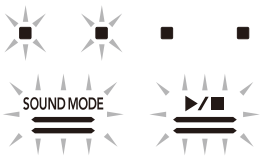
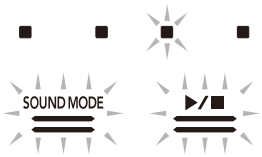
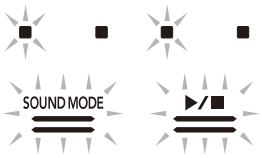
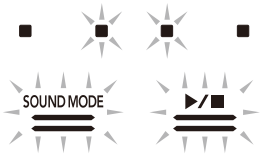
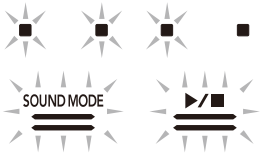
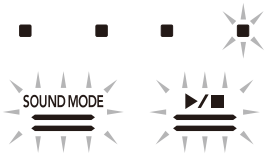
● ボタン操作をすると、鳴っている音が一時的に途切れたり、音質が若干変わったように聴こえたりする。

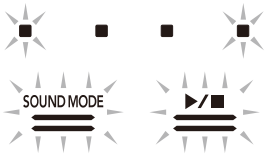
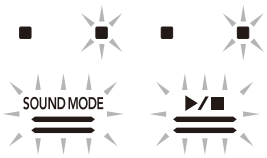
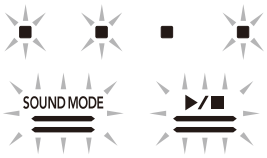
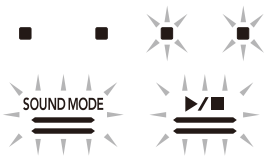
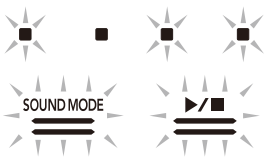
原因: レイヤー機能、デュエット機能、内蔵曲の演奏、録音機能などを使用しているときは、複数のパートの音が同時に鳴っています。こうした場合にボタンを操作すると、音色固有の内部エフェクト設定が自動的に変更されて、パートによってはこのような現象が発生することがありますが、故障ではありません。

● ユーザー曲を削除する操作がわからない

対処: ユーザー曲の追加は、本機と接続したスマートデバイスやUSBメモリーから、ユーザー曲の削除は、本機と接続したスマートデバイスから実行できます。詳しくは、43ページ「スマートデバイスとリンクする(APP機能)」、31ページ「USB メモリーを使用する」をご参照ください。

エラー表示一覧

表示	原因	解決方法
	本機の**11USB** Type A端子にUSBメモリーが正しくセットされていない。	**11USB** Type A端子にUSBメモリーを正しくセットする。
	操作の途中でUSBメモリーが抜き差しされた。	本機の操作中にはUSBメモリーを動かさない。
	USBメモリーがプロテクトされている。	USBメモリーのプロテクトを解除する。
	USBメモリーにウイルス対策ソフトが入っている。	ウイルス対策ソフトが入っていないUSBメモリーを使う。
	“MUSICDAT”フォルダの中に読み込みや再生ができるファイルが無い。	読み込みや再生したいファイルを“MUSICDAT”フォルダへ移動する(35ページ)。
	録音データが無いのにUSBメモリーに保存しようとした。	録音してから保存する。
	USBメモリーに入っている読み込み専用ファイルと同じ名前で、別データを保存しようとしている。	• USBメモリーのファイルを別の名前に変えてから保存する。 • USBメモリーのファイルから読み込み専用属性を外して、上書き保存する。 • 別のUSBメモリーを使う。
	USBメモリーの空き領域が足りない。	USBメモリーに保存しているファイルを消去して、空き領域を増やす。または別のUSBメモリーを使う。
	オーディオレコーダーの上限曲数(99曲)を超えて、録音を開始しようとした。USBメモリーのMUSICDATフォルダー内に、TAKE99.WAV(28ページ)がすでにある。	パソコンを使って、USBメモリーのMUSICDATフォルダー内にあるTAKE01.WAV～TAKE99.WAVを別のフォルダーやドライブに移動する。
	SMFフォーマット2の曲データを再生しようとした。	本機で再生できるSMFのフォーマットは、“0”または“1”です。
	USBメモリーのSMFファイルのサイズが大きすぎて本機で再生できない。	本機では最大で約90KBのSMFファイルまで再生できます。

表示	原因	解決方法
	USBメモリーのデータが壊れている。	ー
	Song Recorderの曲をSMFに変換してUSBメモリに保存するために必要な、本機のメモリー空き領域が不足している。	• 曲のデータサイズを小さくする。 • 削除できるトラックのデータを消去する。
	USBメモリーのファイルのバージョンが、本機で対応していないバージョンになっている。	本機が対応しているバージョンのファイルを用意する。
	USBメモリーのフォーマットが本機に適合していない。	• パソコン等を使って、USBメモリーを本機に対応したフォーマットに変更する(32ページ)。 • 別のUSBメモリーを使う。
	USBメモリーが壊れている。	別のUSBメモリーを使う。
	**11USB** Type A端子にワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターが接続されていない。	ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを**11USB** Type A端子に接続する。

メモ

• エラーが発生したときには、**7**●(REC)ボタンの上にある、“L”と“R”のインジケーターも点灯します。表示のイラストは、点滅の状態を示しています。

資料

製品仕様

型式	PX-S1100BK/PX-S1100WE/PX-S1100RD
鍵盤	88鍵
デュエット	音域変更可(−2〜+2オクターブ)
トランスポーズ	−12〜0〜+12半音
オクターブシフト	−2〜0〜+2オクターブ
音源	
音色数	18(全鍵盤用音色17+低域専用ベース音色1) • レイヤー可(ベース音色を除く) • スプリット可(低域はベース音色のみ)
同時発音数	最大192音
タッチレスポンス機能	感度設定5種類、オフ
チューニング	415.5Hz〜440.0Hz〜465.9Hz(0.1Hz単位)
音律	平均律+16種類
アコースティックシミュレーター	ハンマーレスポンス、キーオフレスポンス、ストリングレゾナンス、ダンパーレゾナンス、ダンパーノイズ、キーオンアクションノイズ、キーオフアクションノイズ
デジタルエフェクト	
サウンドモード	ホールシミュレーター(4種)、サラウンド(2種)
その他エフェクト	コーラス(4種)、DSP(一部の音色に組込み済み)、ブリリアンス(−3〜0〜+3)
デモ曲	1曲
ミュージックライブラリー	
内蔵曲	60曲
ダウンロード曲	10曲(1曲あたり最大約90KB、10曲で約900KB)※ ※表記容量は、1KB=1024バイト、1MB=1024^2バイト換算です。
曲の音量	調節可(録音機能と兼用)
パートのオン／オフ	L、R
MIDIレコーダー	MIDIデータとしてリアルタイム録音、再生
曲数	1曲
録音トラック数	2トラック
容量	合計約10,000音符
録音内容の保持	内蔵フラッシュメモリー
曲の音量	調節可(ミュージックライブラリーと兼用)
オーディオレコーダー	オーディオデータとしてリアルタイム録音、再生
曲数	99曲(ファイル)
ファイル形式	WAV形式(リニアPCM、16bit、44.1kHz、ステレオ)
最大録音時間	1ファイルあたり約25分
録音内容の保持	USBメモリー
メトロノーム	
拍子ベル音	オフ、1〜9(拍子)
テンポ範囲	20〜255
音量	調節可
ペダル	
付属ペダル(SP-3)	ダンパー(オフ、オン)、ソステヌート(オフ、オン)、ソフト(オフ、オン)、メトロノーム(スタート、ストップ)、テンポ設定の間で切り替え可
ペダルユニット (SP-34, 別売品)	ダンパー(オフ、ハーフ、オン)、ソステヌート(オフ、オン)、ソフト(オフ、オン)
その他の機能	• オートレジューム • 操作のロック • 通知音設定(セット1〜セット3切り替え可、音量調節可)

MIDI	16chマルチティンバー受信
入出力端子	
PHONES端子	ステレオミニジャック×2
電源端子	DC12V
LINE OUT R、L/MONO端子	標準ジャック×2 出力インピーダンス 600Ω、出力電圧 1.3V(RMS) MAX
USB端子	Type A、Type B
DAMPER PEDAL端子	標準ジャック
PEDAL UNIT端子	専用形状
音響	
アンプ出力	8W + 8W
スピーカー	16cm×8cm(楕円形)×2
電源	2電源方式
電池	単3形アルカリ乾電池6本使用 連続動作時間:約4時間 アルカリ電池使用、内蔵デモ曲再生時 ご使用の電池の種類や演奏方法によっては連続動作時間が短くなることがあります。
家庭用AC100V電源	ACアダプターAD-A12150LW使用
オートパワーオフ機能	約4時間後(ACアダプター使用時)/約6分後(電池使用時)、キャンセル可能
消費電力	12V ⎓ 10W
サイズ	幅132.2×奥行23.2×高さ10.2cm
質量	約11.2kg(乾電池含まず)
付属品	ACアダプター(AD-A12150LW)、ペダル(SP-3)、ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプター、譜面立て、取扱説明書、保証書、楽譜集、安全上のご注意

- 改良のため、仕様およびデザインの一部を予告なく変更することがあります。

楽譜集について

付属している楽譜集のPDFデータを弊社ウェブサイトからダウンロードできます。お手持ちのスマートデバイスで楽譜を閲覧できます。

PDFデータは、目次から楽譜ページに直接アクセスできる機能がついていたり、弾きたい曲だけをプリントアウトできて便利です。

https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S1100/

【別売品のご案内】

別売品の内容は、予告なく変更されることがあります。詳しくは店頭のカシオ電子楽器カタログをご覧ください。

https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S1100/

音色リスト

音色名	選択鍵盤音名	プログラムチェンジ	バンクセレクトMSB
GRAND PIANO CONCERT	A0	0	0
GRAND PIANO BRIGHT	B♭0	1	0
GRAND PIANO MELLOW	B0	2	0
ROCK PIANO	C1	3	0
JAZZ PIANO	C♯1	4	0
ELEC.PIANO	D1	5	0
DIGITAL E.PIANO 1	E♭1	6	0
DIGITAL E.PIANO 2	E1	7	0
60'S E.PIANO	F1	8	0
HARPSICHORD	F♯1	9	0
VIBRAPHONE	G1	10	0
STRINGS 1	A♭1	11	0
STRINGS 2	A1	12	0
PIPE ORGAN	B♭1	13	0
JAZZ ORGAN	B1	14	0
ELEC.ORGAN 1	C2	15	0
ELEC.ORGAN 2	C♯2	16	0
BASS	D2	17	0

メモ

• BASSは低音部専用の音色で、単独で鳴らすことはできません。

ミュージックライブラリーリスト

番号	選択鍵盤音名	曲名
1	C2	ノクターン 作品９の２
2	C♯2	幻想即興曲 作品６６
3	D2	エチュード 作品１０の３ ＜別れの曲＞
4	E♭2	エチュード 作品１０の５ ＜黒鍵＞
5	E2	エチュード 作品１０の１２ ＜革命＞
6	F2	エチュード 作品２５の９ ＜蝶々＞
7	F♯2	プレリュード 作品２８の７
8	G2	ワルツ 作品６４の１ ＜小犬のワルツ＞
9	A♭2	ワルツ 作品６４の２
10	A2	楽興の時 第３番
11	B♭2	即興曲 作品９０の２
12	B2	軍隊行進曲 第１番（連弾）
13	C3	春の歌「無言歌 第５集」より
14	C♯3	楽しき農夫「ユーゲント・アルバム」より
15	D3	見知らぬ国と人々について 「子供の情景」より
16	E♭3	トロイメライ「子供の情景」より
17	E3	タンブラン
18	F3	メヌエット BWV Ａｎｈ.１１４ 「アンナ・マグダレーナ・バッハの クラヴィーア小曲集」より
19	F♯3	インヴェンション 第１番 BWV ７７２
20	G3	インヴェンション 第８番 BWV ７７９
21	A♭3	インヴェンション 第１３番 BWV ７８４
22	A3	プレリュード 第１番 BWV ８４６ 「平均律クラヴィーア曲集 第１巻」より
23	B♭3	かっこう
24	B3	ガボット
25	C4	ソナチネ 作品３６の１ 第１楽章
26	C♯4	ソナチネ 作品２０の１ 第１楽章
27	D4	ソナタ K.５４５ 第１楽章
28	E♭4	ソナタ K.３３１ 第３楽章 ＜トルコ行進曲＞
29	E4	ロンド K.４８５
30	F4	エリーゼのために
31	F♯4	トルコ行進曲
32	G4	ソナタ 作品１３ ＜悲愴＞ 第１楽章
33	A♭4	ソナタ 作品１３ ＜悲愴＞ 第２楽章
34	A4	ソナタ 作品１３ ＜悲愴＞ 第３楽章
35	B♭4	ソナタ 作品２７の２ ＜月光＞ 第１楽章
36	B4	ラプソディ 第２番
37	C5	ワルツ 作品３９の１５（連弾）
38	C♯5	愛の夢 第３番
39	D5	花の歌
40	E♭5	乙女の祈り
41	E5	クシコス・ポスト
42	F5	ユーモレスク　作品１０１の７
43	F♯5	メロディー「叙情小曲集 第２集」より
44	G5	シシリエンヌ 作品７８

番号	選択鍵盤音名	曲名
45	A♭5	子守唄「ドリー組曲」より（連弾）
46	A5	アラベスク 第１番
47	B♭5	亜麻色の髪の乙女「前奏曲集」より
48	B5	パスピエ「ベルガマスク組曲」より
49	C6	ジムノペディ 第１番
50	C♯6	ジュ・トゥ・ヴ
51	D6	愛の挨拶
52	E♭6	エンターテイナー
53	E6	メープル・リーフ・ラグ
54	F6	アラベスク「２５の練習曲 作品１００」 より
55	F♯6	スティリアンヌ「２５の練習曲 作品 １００」より
56	G6	アヴェ・マリア「２５の練習曲 作品 １００」より
57	A♭6	帰途「２５の練習曲 作品１００」より
58	A6	貴婦人の乗馬「２５の練習曲 作品 １００」より
59	B♭6	第１３番「３０番練習曲 作品８４９」 より
60	B6	第２６番「３０番練習曲 作品８４９」 より

Model: PX-S1100

Version : 1.0

MIDI インプリメンテーション・チャート

ファンクション		送　信	受　信	備　考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 ～ 16 1 ～ 16	1 ～ 16 1 ～ 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代　用	モード3 × ＊＊＊＊＊＊＊	モード3 × ＊＊＊＊＊＊＊	
ノート ナンバー	音　域	12 ～ 120 ＊＊＊＊＊＊＊	0 ～ 127 0 ～ 127	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH v = 1 ～ 127 × 8nH v = 64	○ 9nH v = 1 ～ 127 × 9nH v = 0, 8nH v = 0 ～ 127	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ○	
ピッチ・ベンド		×	○	
コントロール チェンジ	0, 32 1 5 6, 38 7 10 11 64 65 66 67 71 72	○ × × ○ *1 ○ × *4 × *4 ○ *2 × ○ *2 ○ *2 × *4 × *4	○ ○ ○ ○ *1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	バンク・セレクトLSB, MSB モジュレーション ポルタメント・タイム データ・エントリーLSB, MSB ボリューム パン エクスプレッション ホールド1 ポルタメント・オン／オフ ソステヌート ソフト フィルター・レゾナンス リリース・タイム

73	× *4	○	アタック・タイム
74	× *4	○	フィルター・カットオフ
76	×	○	ビブラート・レート
77	×	○	ビブラート・デプス
78	×	○	ビブラート・ディレイ
84	×	○	ポルタメント・コントロール
88	○ *3	○	ハイ・レゾリューション・ベロシティ・プリフィクス
91	× *4	○	リバーブ・センド・レベル
93	× *4	○	コーラス・センド・レベル
94	× *4	○	ディレイ・センド・レベル
100, 101	× *1	○ *1	RPN LSB, MSB
プログラム・チェンジ	○	○	
設定可能範囲	*******	0 ～ 127	
エクスクルーシブ	○*1	○*1	
コモン ソング・ポジション	×	×	
コモン ソング・セレクト	×	×	
コモン チューン	×	×	
リアルタイム クロック	×	×	
リアルタイム コマンド	×	×	
その他 オール・サウンド・オフ	× *4	○	
その他 リセット・オール・コントローラー	× *4	○	
その他 ローカル ON／OFF	×	×	
その他 オール・ノート・オフ	×	○	
その他 アクティブ・センシング	○	○	
その他 システム・リセット	×	×	
備　考	*1: 送受信対応 RPN,システム・エクスクルーシブ・メッセージの詳細は MIDI Implementation（https://casio.jp/support/emi/）参照 *2: DAMPER PEDAL端子に接続されているペダルについては、ペダルの設定により択一 *3: ノート・オンのみ *4: 一部の操作に付随して出力		

モード1：オムニ・オン、ポリ　　モード2：オムニ・オン、モノ　　○ ： あり
モード3：オムニ・オフ、ポリ　　モード4：オムニ・オフ、モノ　　× ： なし

CASIO®

カシオ計算機株式会社
〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

PXS1100-JA-2B
MA2204-B

© 2021 CASIO COMPUTER CO., LTD.